

MUJINTO

The Alumni Association of Otani University

2014年9月
No.139

無 書 燈



大谷大学同窓会

大谷大学と私



吉元信行先生に
インタビュー

「原始仏教から
仏教福祉へ」

本学で30年教鞭をおとりいただいた吉元信行先生に、尋源館でお話を伺いました。

▶先生が大谷大学に入学された経緯からお聞かせください。

清沢満之時代の真宗大学に通った地元の恩師から「素晴らしい大学だから、ぜひ大谷大学に行け」と勧められました。それで、風呂敷一つ下げて京都に降り立ち、育英学寮に入りました。幡谷先生が寮監でした。1年して寮が終わると、下宿代がないので、住み込みでお寺の役僧をしながら卒業しました。家からの仕送りもなく、まさに「苦学生」そのものでした。

第3学年で学科を決めるときに、真宗学にしようか仏教学にしようかと非常に悩みました。「仏教入門」(現「人間学Ⅰ」)担当の舟橋一哉先生に「仏教をやるならはじめからやったらどうだ」と言われ、原始仏教の舟橋ゼミに入りました。その当時は、原始仏教を専門とした先生がたくさんおられました。佐々木現順先生、それから雲井昭善先生、佐々木教悟先生、櫻部建先生もまだ若手でおられました。佐々木現順先生には、特によく指導していただきました。私1人に対して、3人か4人の先生が指導してくれたという恵まれた時代でした。

▶保護司としてもご活躍され、藍綬褒章や瑞宝双光章を授章していらっしゃいます。

大学院に行くには経済的な問題がありました。それで先輩に相談したところ、犯罪前歴者や非行少年の更生施設(更生保護会)の職員を紹介されました。そこ

に寝泊まりして犯罪非行者の相談相手になってくれという話でした。そこに正式職員(補導員)として勤め、給料をもらいながら大学院にも行けるという、私にとっては願ってもないことでした。もちろん、昼にも仕事がありますから、修士課程に4年かかりました。博士課程と併せて、大学院の間の7年間勤めました。それで、何とか親からの仕送りなしに学費と生活費をまかなえ、研究もできました。

その施設の性格上、保護司の資格が必要で、24歳で保護司になりました。保護司とは、非行少年や犯罪前歴者の更生を援助する仕事です。役所などとの折衝や報告など事務的なこともあります。やはり対象者とのカウンセリングが一番大事な仕事です。

保護司をしている内に、興味深いことに気づきました。ベテランの職員よりも、初心者でしかない私の処遇の方がうまくいったのです。なぜかと考えたときに気付いたのが、私は原始仏教を勉強しているということでした。仏陀について学ぶということはカウンセリングについて学ぶことだと気づいたのです。それで、「原始仏教における対機説法の体系」という題で修士論文を書きました。仏陀は偉大なカウンセラーであり、仏典はそのカウンセリングの記録であり、仏教はカウンセリングの体系であるという内容です。後に、その序文に加筆したものが『犯罪と非行』の巻頭論文として採用掲載されました(第6号)。私の考えが一般にも認められたと感動しました。それ以降、いつも仏教と福祉という視点を持っています。アビダルマに興味をもったのも、カウンセラーの内面やカウンセリング理念の基礎がアビダルマの中にあると思ったからでした。

施設を辞めてからも、引き続き、住んでいる地域の保護司をしています。現在も大分県で保護司をやっており、今年で48年目にもなります。

▶「ビハーラ運動」でもご活躍です。

末期がんの患者さんたちを看取るホスピスというキリスト教系の施設があります。それを見て、本学卒業生の田宮仁さん(1982年博士後期課程満期退学)が仏教のホスピスをつくりたいと考えられました。しかし、「仏教ホスピス」という名称ではしっくりこない。そこで、私に相談に来られたのです。いろいろ考えて、「ビハーラ」ではと提案しました。アショーカ王時代にアローグヤ・ビハーラアローグヤ・ビハーラ 施療院ビハーラという、病院の役割をした僧院があったのです。そして、田宮先生のお兄さんが長岡西病院を設立したときに、仏堂を中央に配したビハーラ病棟をつくりました。これが日本におけるビハーラ第1号です。

ビハーラの理念を構築する際に注目したのが、釈尊マハー・バリニッパナ・スツタンタが入滅に至るまでを記録した経典『ブツダ最後の旅』

でした。それ以降、田宮先生が立ち上げた研究会のメンバーとして、『ブッダ最後の旅』を通して理念構築していきました。この運動は徐々に拡がり、私自身も、講演や論文だけではなく、『ブッダのターミナルケア』や『ビハラー維摩経』という本も出しました。今でも中津でビハラーの研究会をしています。

大谷大学でも、近年、社会福祉や教育・心理といったビハラーに通じるような動きが出てきたのは嬉しいことです。

▶専任教員というお立場になられてからのことについてお聞かせください。

いろいろ工夫して精一杯やりました。特に「総合」(現「人間学I」)では、かなり苦勞して学生の興味を引くようにしました。それらの中でも、福祉という側面が学生に受けた記憶があります。ゼミでは『ブッダ最後の旅』を読んだり、福祉に関わるようなことを取り上げさせてみたりしました。教室の中だけではなく、学生を連れてインドに12回ほど行きました。釈尊の歩まれたインドの大地を自ら歩いた経験と感激が、講義にも反映していたでしょう。『人間仏陀』という著書はその集積です。

若い人たちの研究環境を整えるために、辞書の編纂にも取り組みました。辞書の編纂は一人でできる仕事

ではありません。『大蔵経全解説大辞典』と『仏教社会福祉辞典』では、編集委員の一人を務めました。多くの人に項目を執筆して頂き、それらを編集委員が手を入れつつチェックして、一つのまとまった辞典に仕上げます。これは、とても辛い仕事でした。でも、ずっと後の人たちがまでが使うものですから、非常に重要な仕事であったと思います。

また、ちょっとしたきっかけで「パンニャーサジャータカ」というクメール文字貝葉の稀覯資料が大谷大学にあるということが分かりました。それで、学内外の人たちと共同研究を始めました。その後も、若手が引き継いで研究を続けてくれていて、業績が上がってきているのは嬉しいことです。研究者冥利に尽きますね。

▶大谷大学や大谷大学の学生へのメッセージをお願いします。

大谷大学は、特に伝統のある大学ですよ。真宗大学以来の伝統が連綿としてある、芯の通った大学です。かつて私の学生の頃は、鈴木大拙、金子大榮、曾我量深、多屋頼俊、土岐善麿といった有名な先生方が出講しておられました。そういう伝統のある大学であるということを決して忘れずに、教職員や学生たちは誇りを持って、現在の時代の教育研究を実行して頂きたいと思います。

【略歴】

1940年 大分県に生まれる
1963年 大谷大学文学部卒業
1967年 大谷大学大学院修士課程修了
1970年 大谷大学大学院博士課程満期退学
1976年 大谷大学助手
1980年 大谷大学専任講師
1989年 大谷大学助教授
1994年 大谷大学教授
2000年 真宗総合研究所長(兼 入学センター長)
2006年 大谷大学退職
現在 大谷大学名誉教授

【叙勲・褒章】

2002年 藍綬褒章授章(保護司として)
2013年 瑞宝双光章授章(保護司として)

【著書】

『アビダルマ思想』(単著)
『仏教の原点を訪ねて』仏陀最後の旅
路とカピラ城踏査団編(編著)
『仏陀の足跡と思想』(共著)
『仏教司法福祉実践試論』(共著)
『司法福祉と仏教』(共著)
『人間仏陀』(単著)
『ブッダの前生<原始仏典2>』(共訳)
『大蔵経全解説大辞典』(編著)

『ブッダのターミナルケア』(単著)

『仏教社会福祉辞典』(編著)
『ビハラー維摩経』(単著)

【論文】

「アビダルマ仏教的判釈の諸相」
「アビダルマディーバ所引の法句経」
「滅諦・涅槃の異名」
「心理的諸概念の大乗アビダルマ的分析-遍行・別境心所-」
「非行臨床実務に生きる仏教理念」
「仏陀最晩年の福祉思想」
他論文 多数

吉元信行先生へのコメント

包容力と着眼のユニーク 大谷大学非常勤講師 清水 洋平(仏教学)

吉元ゼミは、スリランカや東南アジアからの留学生あるいは社会人学生など、バラエティーに富んだ人たちが集まり、独特の雰囲気溢れていた。そこでは厳密な文献研究の手法が指導される一方、メンバーの意見もできる限り尊重しようとされる大らかな吉元先生の姿が見られた。

時に、先生は有志を募り、発掘間もないサッダーラ仏教遺跡(インド)やチャンパの聖地ミーソン遺跡(ヴェトナム)等、当時は殆ど知られ

ていなかった場を訪れ、文献研究にフィールドワークの風味を添え、研究に厚みを加える体験を私たちにさせてくださった。

本学所蔵のタイ王室寄贈のパーリ語貝葉写本研究に端緒が開かれたのも、包容力と着眼のユニークに優れた先生にして初めて可能であったと思う。これら幾多の先生からの教えが、今、私をしてタイの経蔵に赴かせていると思わずにはいられない。



清水 洋平 博士(文学)
2003年 大谷大学大学院博士
後期課程満期退学
2004年4月~2006年3月
大谷大学任期制助手
2005年 大谷大学非常勤講師
2007年4月~2010年3月
日本学術振興会 特別研究員
[PD・名古屋大学]
2010年 大谷大学真宗総合研
究所特別研究員

自ら創る「学び」のかたち

—伝統を、社会に開き、未来へつなぐ—

大谷大学 学長 草野顕之

■はじめに

新教室棟ならびにキャンパス整備の大綱

大谷大学は、教育・研究力のより一層の充実を図り、学生が主体的に学ぶことができる新しい環境づくりを目指して、2018年完成を目途に、新教室棟の建築を含めた本部キャンパスの総合整備に着手します。

これは、2014年に築53年を迎える既存の研究室棟(聞思館)・事務室棟(至誠館)や2015年に築50年を迎える教室棟(1号館旧館部分)等の建て替えという、長期整備計画に基づく取り組みではありますが、大谷大学の伝統を踏まえつつ、未来を見据えた新たな大谷大学を創造する事業として計画を進めています。

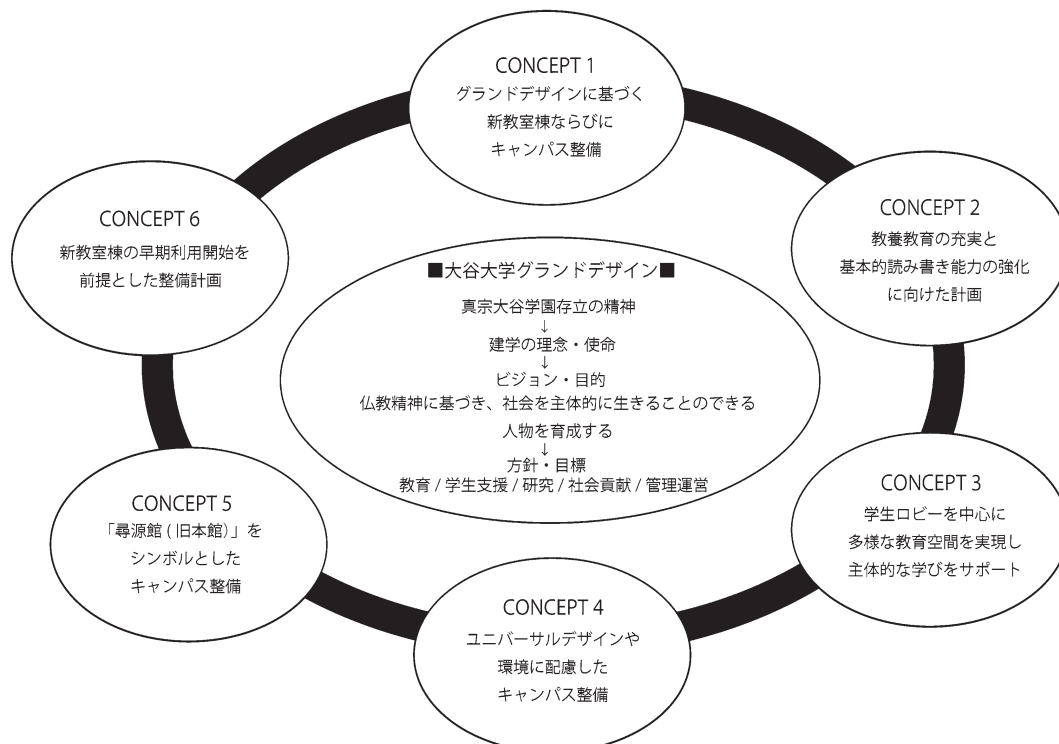
新しい大谷大学については、すでに2011年に、その構想を表した「大谷大学グランドデザイン」が発表されています。そこでは、初代学長清沢満之と第3代学長佐々木月樵によって示された建学の理念をもとに、大谷大学を「仏教を基盤として、人間の真の立脚地を問う」大学であると確認しています。その上で、教育のビジョンを「仏教精神に基づき、社会を主体的に生きることのできる人物を養成する」ものとして示しています。

そしてそれを具体的に実現するための基本方針を5項目挙げ、「教育に関する方針」「学生支援に関する方針」「研究に関する方針」「社会貢献に関する方針」「管理運営に関する方針」として行動計画を策定しています。

この度の新教室棟建設及びキャンパス整備計画は、長期的な大学運営構想に立った計画ではありますが、具体的には「グランドデザイン」に示された5つの基本方針を総合的に実現するための取り組みであります。



イメージ/新教室棟・尋源館の眺望



■CONCEPT 1

グランドデザインに基づく新教室棟ならびにキャンパス整備

「大谷大学グランドデザイン」における5つの方針の「教育に関する方針」では、社会に貢献し、活躍するための具体的な能力を育成することが強調されます。「学生支援に関する方針」では、学生一人ひとりが学修に専念し、充実した学生生活を送ることができる体制の構築が目指されています。

「研究に関する方針」では、学術交流活動の一層の活性化が求められています。「社会貢献に関する方針」では、地域社会を基盤として、幅広く社会との連携を図る教育活動が求められています。

そして「管理運営に関する方針」では、誰にとっても使いやすい「ユニバーサルデザイン」や環境に十分配慮した新たなキャンパス整備が謳われています。

これらの方針の具現化を目指したキャンパス整備によって、地域に密着し、社会に開かれた大学になると共に、学生が主体的に学び、自らの可能性を、自らの発想力と創造力とで伸ばしていくことのできる新たな学修環境の実現を図りたいと考えています。

具体的には、「能動的な学習を取り込んだ授業＝アクティブラーニング」（プレゼンテーション、ディスカッション、体験教育、地域活動、課題解決型学習（PBL）など）に対応した設備の充実を図っていきます。

■CONCEPT 2

教養教育の充実と基本的読み書き能力の強化に向けた計画

以上のような教育・研究力の向上にむけて、まずはこれまで大谷大学が伝統的に行ってきた仏教精神に基づく「人間学」を中心とした教養教育（語学・人文・社会・自然などの幅広い知識）を充実させると共に、それらを「学び・表現する」ための基盤となる「読み書き」能力の全学的強化に向けた教育環境を整備したいと考えています。

そこで新教室棟には、英語や日本語の読み書き能力の向上を支援する「学習支援室」を設け、基礎的な語学学習を支援する体制を整えると共に、日常的な自主学習を可能とする新たな空間「交流スペース（マルチスペース）」を各階に準備します。

また、学生の学修状況を点検し、理想的な教育環境の実現に向けた努力を継続的に行うために、「教育推進室」や「学生支援部（教務課・学生支援課・キャリアセンター）事務局」を新教室棟内に配置し、学生に近い場所で、学生と共に恒常的な教育力の強化を図っていきたいと考えています。



イメージ／交流スペース

■CONCEPT 3

学生ロビーを中心に多様な教育空間を実現し主体的な学びをサポート

新教室棟1階中央部には、広大な「学生ロビー（愛称は公募する）」を設置します。「学生ロビー」は、学生がさまざまな活動に利用することができる多目的のスペースであり、飲食等も可能な空間にすることによって、リラックスした雰囲気の中でキャンパスライフを送ってもらうことができます。

なお、「学生ロビー」を中心に、「教室」や「教員の個人研究室」、各種の「支援室（サポートセンター）」、「学生支援部（教務課・学生支援課・キャリアセンター）事務局」、「交流スペース（マルチスペース）」、「響流館との連結ブリッジ」を配置し、それらが有機的に学生の学びや活動をサポートできるようにします。

学生は自らの目的に合わせて自由に「学生ロビー」を活用することにより、それぞれの目的に合わせた形で、主体的な学びを実現することができます。

「学生ロビー」が産み出す自由な学びは、次のようなものです。



イメージ／様々な学びへの起点となる学生ロビー

①多様な学習に応える

基礎的な「読み書き」学習をサポートする「学習支援室（ラーニングスクエア）」、留学や語学学習活動を支援する「語学学習支援室（グローバルスクエア）」、より高度な「読み書き」を学ぶ「文藝塾（ライティングセンター）」、教職や福祉を目指す学生をサポートする「教職支援センター・大谷教師塾」、「実

習支援センター」など、学習支援関連施設を集約させて設置します。学生は、自分の目的や到達度にあったサポートを選択して活用することができます。

②自由なキャンパスライフを広げる

各階に設置される「交流スペース（マルチスペース）」では、サブゼミや自主学習、さまざまなミーティングや意見交換などが可能となり、自由なキャンパスライフを広げることが可能となります。

③新しい学びに対応する教室

従来型の大教室はもちろん、少人数によるグループワークや学生参加型授業などに対応できる「小規模教室」を多数配置します。また、テーマに対して学生が主体的に問題を解決しながら学びを進める「課題解決型授業（PBL）」や、参加型の多様な学修形態に対応する、自由度の高い教室を用意します。

④より専門的な学びへ

卒業論文の作成や高度な専門研究などにも対応するように、新教室棟と響流館を連結ブリッジで接続し、総合研究室や図書館などへの利便性を高めています。基礎学習から専門研究まで、幅広い学生の学習・研究活動に対応します。

■CONCEPT 4

ユニバーサルデザインや環境に配慮したキャンパス整備

総合整備計画では、「大谷大学グランドデザイン」の「管理運営に関する方針」に謳われている通り、誰にとっても使いやすい「ユニバーサルデザイン」を念頭に、環境にも十分配慮したキャンパス整備の実現を推進します。

すべての学生・教職員が安全に学び、安心してキャンパスライフを送ることができる環境を創出するために、キャンパスアメニティに必要な設備・機器・共用施設を可能な限り準備するとともに、継続的に環境改善に努めます。

また新教室棟は、太陽光発電や重力換気システム、地熱利用などの自然エネルギーを活用することによって、環境に十分配慮した建物として計画します。

それと共に、キャンパス内は尋源館を起点とするメインストリートに面した回廊スペースを広く確保し、併せて緑化計画も進めます。

それによって、都市型キャンパスの中でも、自然を身近に感じられる環境で、学生と教員、学生間のコミュニケーションが深まるような空間の実現を目指します。

■CONCEPT 5

「尋源館（旧本館）」をシンボルとしたキャンパス整備

建学の精神を未来へとつなぐために、「赤レンガ」という名称で100年間、親しまれてきた「尋源館（旧

本館）」を、キャンパスの要に据えた計画を推進します。

キャンパス内にいる学生や教職員から常に「見える」ことを大切にするため、「尋源館」から北に延びる軸線を中心とし、「新教室棟」と既存の「響流館」「講堂棟」「博綜館」が「尋源館」とメインストリートを囲むように整備していきます。

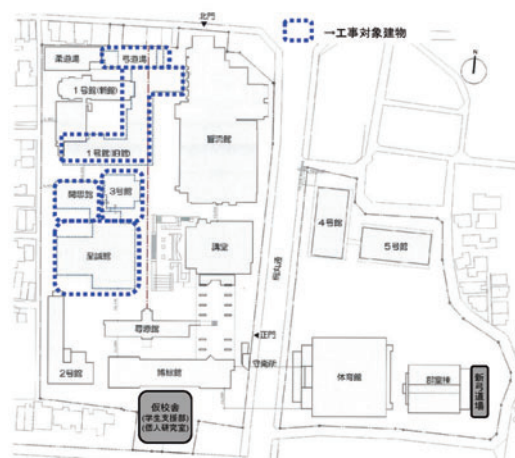
また、将来的な整備計画となるキャンパス北エリアは、地域に隣接するスペースであることを念頭に、地域連携を強化する機能をもつ施設の設置を計画しています。

■CONCEPT 6

新教室棟の早期利用開始を前提とした整備計画

現在の在学生在が可能な限り新教室棟を利用できることを優先するため、全体の工期を短縮する整備計画として推進します。

全体工期の短縮は、「至誠館」「聞思館」の各種機能を博綜館南側に設置する「仮設校舎」と、「3号館」の機能を1号館AV棟部分の一部に分散させるなど、3棟まとめて建て替えることにより工期中も授業運営に必要な教室数を確保しつつ、整備計画が実現されます。



工事日程

※工事日程により、変更になる場合があります。ご了承ください。

「聞思館（個人研究室棟）」「3号館（人文情報学科教室棟）」

「至誠館（旧図書館、学生支援部事務室）」

→2015年2月より解体工事を開始（予定）。

現状の外観が見られるのは、2015年1月末まで。

「1号館（旧館部分）」

→2016年11月に解体工事を開始（予定）。

現状の外観が見られるのは、2016年10月末まで。

以上

支 部 だ よ り

「尾張学友会と尾州寮」



尾張学友会支部長 一柳 啓史

尾張学友会と言えば、今では尾張地域の大谷大学の同窓会的性格が強くなっていますが、もとは昭和6年頃、京都在住の尾張出身者（学者、宗務役員等）と在校生の交流等を通して、尾張教学を研鑽する同志的・同朋的グループでした。今でも学生が学友会の会員となっているのはこのゆえんです。

その核となったのが尾州寮です。昭和10年、木造2階建の尾州寮が竣工され、初代寮長に住田智見師を迎え開寮しました。当時は学友会の事務所も尾州寮に置かれていました。昭和30年頃に別院が加わり、運営も在校生から卒業生中心となり、昭和43年には別院御遠忌の記念事業として鉄筋3階建の新館が建設されました。このたび老朽化著しい尾州寮が木造2階建に新築され、今年の4月から9名で新寮生活が始まりました。80年の歴史を経た尾州寮には親子二代はおろか五代にわたりお世話になった方もあります。

しかし今や学友会の会員は、尾州寮出身者のみならず、女性や在家出身者の方も多く会員数も890余名となりました。支部の活動としては、会報の発行（今年で51号）、懇親会などの企画を主に行っています。世代も幅広く大所帯ゆえ、一部の者に偏りがちですが若き事務局の奮闘のおかげで、尾張学友会としての活動は順調に進められています。



新しくなった尾州寮

「福井支部から」



福井支部長 日下部 求

福井支部は昭和28年に発足しました。以来、支部長不在がしばらく続いた時もあり、存続の危機を何度か経験しながらも現在に至っており、現在449名の同窓生を抱える支部になっています。

福井支部は、支部長、副支部長、庶務（事務局）、会計、監事の5名の役員と各地域の代表者の18名の委員によって支部を盛り上げるための企画の相談や総会の案内、総会資料の発送作業など支部の運営をおこなっています。

福井支部の当面の課題は、支部同窓会への同窓会員の出席を増やし、交流を活発にすることです。近年在学生によって福井県人会が開催され、その繋がりから、若い会員が同窓会に出席してくれるようになってきました。それをもっと後押ししようということで、若い人が出席しやすいように30歳以下の会員の同窓会の懇親会費を安く設定することにしました。また、同窓会になかなか出席してもらえない女性会員同士の交流を図り同窓会への出席に繋げてもらおうと女子会を開催しています。大学を意識しながら会話をしていただくことで、新たな企画発想のきっかけになればと考えています。

支部の同窓生と話をしていると、大学卒業以来大学に行ったことがないという人が多いことに驚かされます。そこで、来年に支部同窓生による大谷大学訪問見学ツアー（仮称）を計画中です。昔とは変わった大学の姿を見、大学の先生のお話をお聞きし、そして福井出身の在學生と交流することを、今後大学の方と相談しながら企画を煮詰めていきたいと考えています。

福井支部は予算規模も小さく、大きな事業はできませんが、大学と福井の同窓生を繋いでいくことを地道にやっていきたいと思っています。



福井支部役員の方々

母校だより

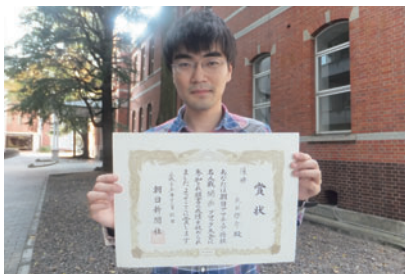
活躍した学生を表彰する 「赤レンガ賞」を創設

このたび教育後援会では、学生時代に様々なことにチャレンジして、結果を残している学生を表彰し激励する機会として「赤レンガ賞」を創設しました。今回は、国内大会や国際大会で活躍した以下の3名の学生を表彰することにしました。

文学部歴史学科第2学年の太田啓介（おた けいすけ）さんは、2013年11月4日に開催された「第37回朝日アマチュア将棋名人戦」の関西ブロック大会において勝ち抜き、2014年3月に開催された全国大会に関西代表の一人として出場しました。

太田さんは、高校3年生だった2012年にも「第25回アマチュア竜王戦」に出場したほどの実力者です。

将棋の大会には大学対抗の団体戦もあり、大谷大学のメンバーを集めて、そこにも出場したいと思っているようです。



太田啓介さん

文学部教育・心理学科第3学年の笠松順（かさまつ じゅん）さんは、2013年12月14日～15日に開催された、ドッジボールの第1回アジアカップに男子日本代表（14名）の一人として選出されま

した。その大会に、日本・台湾・韓国・香港の4チームが出場し、男子日本代表は見事優勝しました。

笠松さんは、輝く金メダルを胸に「アジアカップ優勝という結果は素直に嬉しい。同時にドッジボールを競技として、ますます普及させていきたいと意を新たにしました。支えてくれた多くの人たちに感謝の気持ちで一杯」とコメントしてくれました。



笠松順さん

文学部社会学科第3学年の中麻（なか あさ）さんは、2013年10月26日～30日に開催された「アジアユースパラ競技大会マレーシア2013」にゴールボールの日本女子代表として出場し、見事2位という成績をおさめました。その功績により、昨年度、京都府・京都市からそれぞれスポーツ賞を受賞しました。

中さんは「今年もゴールボールの国際大会が開かれるので、またJAPANのユニフォームを着て出場したいと思っている。どんなボールでもとれる鉄壁のディフェンダーをめざしているので、目的意識を明確にして練習に取り組み、色々な球種に対応できるようになりたい」と意気込みを語ってくれました。



中麻さん

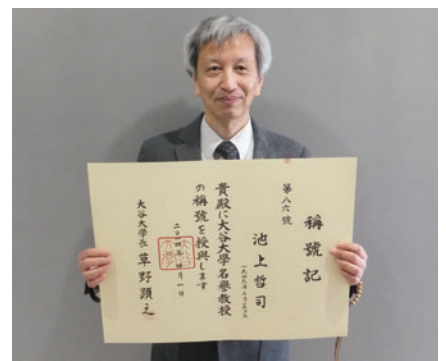
2014年3月18日に、「赤レンガ賞」の授与式が執り行われました。授与式では、高橋法信教育後援会長より、励ましの言葉が添えられ、表彰状と奨励金が授与されました。



「赤レンガ賞」受賞者と教育後援会役員・大学執行部

名誉教授の称号贈られる

このたび、大谷大学名誉教授称号授与規程に基づき、本学の教育上、また学術上、特に功績のあった先生におくられる名誉教授の称号が池上哲司先生（倫理学）、佐賀枝夏文先生（社会福祉学）、宮下晴輝先生（仏教学・人文情報学）におくられました。



池上哲司先生



佐賀枝夏文先生



宮下晴輝先生

授与式は4月1日（火）に学長室において行われました。

課程博士の学位を授与

2013年9月30日の2013年度前期学位記授与式において、博士後期課程修了者1名に「博士（文学）」の学位が授与されました。学位取得者は、佐々木宣祐氏（仏教学）です。



佐々木宣祐氏

また、2014年3月18日の学位記授与式においては、博士後期課程修了者6名に「博士（文学）」の学位が授与されました。学位取得者は、佐々木秀英（真宗学）、青柳英司（真宗学）、光川真翔（真宗学）、山元一志（真宗学）、森真理子（仏教文化）、長谷川雄高（仏教文化）の各氏です。



（左より）佐々木秀英氏、青柳英司氏、光川真翔氏、山元一志氏



（左より）長谷川雄高氏、森真理子氏

人 事

（2013年9月1日～
2014年7月31日）

学長再任

[大谷大学長（第27代）兼大谷大学短期大学部学長]

草野 顕之（再任）

（任期は2016年3月31日まで）

2014年4月1日付

学監の交代

[学監・副学長]

水島 見一（再任）

2014年4月1日付

副学長の交代

[教育・学生支援担当副学長兼文学部学長]

木越 康

（ロバート F.ローズ 前教育・学生支援担当副学長兼文学部学長）

[研究・国際交流担当副学長]

松川 節

（浅見直一郎 前研究・国際交流担当副学長）

2014年4月1日付（各通）

部科長等の交代

[短期大学部長]

藤本 芳則

（山野 俊郎 前短期大学部長）

2014年4月1日付

幼稚園長の交代

[幼稚園長]

徳岡 博巳

（佐賀枝夏文 前幼稚園長）

2014年4月1日付

館長等の交代

[図書館長]

番場 寛

（加藤 文雄 前図書館長）

[博物館長]

齋藤 望（再任）

[真宗総合研究所長]

松川 節

（浅見直一郎 前真宗総合研究所長）

[人権センター長]

藤原 正寿

（谷 眞理 前人権センター長）

2014年4月1日付（各通）

退職

* 定年退職

[教育職員]

池上 哲司（教授・文学部）

池田 敬子（教授・文学部）

木船 憲幸（教授・文学部）

佐賀枝夏文（教授・文学部）

下道 省三（教授・短期大学部）

延塚 知道（教授・文学部）

宮下 晴輝（教授・文学部）

[事務職員]

大平 達雄（総務部）

滝 正導（学生支援部）

* 契約期間満了による退職

[教育職員]

高橋 真（任期制講師・文学部）

中田 千穂（任期制講師・短期大学部）

今西 智久（任期制助教・文学部）

河崎 豊（任期制助教・文学部）

黒澤 祐介（任期制助教・文学部）

佐々木秀英（任期制助教・文学部）

鈴木 達明（任期制助教・文学部）

相馬 晃（任期制助教・文学部）

宋 基燦（任期制助教・文学部）

竹中正太郎（任期制助教・文学部）

[事務系嘱託]

井上 朋子 (学生支援部)
小田みずえ (教育研究支援部)
杉江かおり (教育研究支援部)
福村 愛 (学生支援部)
藤森 麻子 (教育研究支援部)
松石 亜也 (学生支援部)
松浦 健 (教育研究支援部)

[寮監]

中山 量純 (貫練学寮)
2014年3月31日付 (各通)

* 依願退職

[教育職員]

山内 清郎 (准教授・文学部)

[事務職員]

大西 協子 (教育研究支援部)
太江由佳理 (学生支援部)
松浦 剛 (総務部)
2014年3月31日付 (各通)
後藤 秋華 (総務部)
2014年4月30日付
村上 力 (学生支援部)
2014年5月31日付

[事務系嘱託]

本多美沙子 (企画・入試部)
2013年12月31日付
野村 壮典 (企画・入試部)
2014年2月28日付

[寮監]

亀山 幸恵 (自灯学寮)
2014年3月31日付

新規採用

[教育職員]

朝比奈覚順 (教授・文学部)
荒瀬 克己 (教授・文学部)
上田 敏樹 (准教授・文学部)
脇坂 真弥 (准教授・文学部)
井黒 忍 (講師・文学部)
高橋 真 (講師・文学部)
中野加奈子 (講師・文学部)
池田 敬子 (特別任用教授・文学部)
木船 憲幸 (特別任用教授・文学部)
下道 省三

(特別任用教授・短期大学部)

延塚 知道 (特別任用教授・文学部)
赤澤 清孝 (任期制講師・文学部)
矢野永吏子

(任期制講師・短期大学部)

青柳 英司 (任期制助教・文学部)
一澤 美帆 (任期制助教・文学部)
上田早記子 (任期制助教・文学部)
孫 知慧 (任期制助教・文学部)
中井 信介 (任期制助教・文学部)
鳴 一志 (任期制助教・文学部)
林 誓雄 (任期制助教・文学部)
堀田 和義 (任期制助教・文学部)

[事務職員]

相馬 晃 (学生支援部)
田中 葵 (総務部)
松浦 健 (学生支援部)
山本 均 (学生支援部)

[事務系嘱託]

柏 淳子 (学生支援部)
神田 友恵 (教育研究支援部)

橘高 梓 (企画・入試部)
窪 浩子 (教育研究支援部)
小寺 祥世 (教育研究支援部)
塩見 優樹 (学生支援部)
鈴鹿真知子 (企画・入試部)
段 敦子 (教育研究支援部)

[寮監]

井野 了慧 (貫練学寮)
田端 彩子 (自灯学寮)

[学習支援アドバイザー]

西尾 浩二
(学習支援主任アドバイザー)
太田 露子
竹花 洋佑
戸次 顕彰
松下 俊英
2014年4月1日付 (各通)

黒澤 祐介
2014年5月7日付

瀬戸奈美子
2014年7月1日付

昇格

[教授]

太田 智子 (短期大学部)
東館 紹見 (文学部)
村山 保史 (文学部)

[准教授]

石本 哲子 (文学部)
ダシュ ショバラニ (文学部)
中川 眞二 (文学部)

2014年4月1日付

西田潤一名誉教授を偲んで



本学名誉教授である西田潤一先生が2014年1月31日にご逝去された。享年71歳であった。特にご病気を患っていたようでもなく、突然の死が残念でならない。

先生は京都大学にて理学博士の学位を取得された後、1976年に大谷大学に

着任された。その後32年の長きにわたり本学自然科学分野の教育と研究に尽力された。先生のご専門は物理地質学で、物理学の手法を地質学に応用していくという先駆的な取り組みをされた。岩石に記録された磁気情報の解析に関する研究、重力測定を通して琵琶湖やインドネシア・スマトラ島の地下構造を論じた研究が代表的である。

私が先生と深く関わるようになったのは、2000年にジャワ島とスマトラ島の地質調査にお誘いいただいた時であった。当時の先生の口癖は、「そんなことも知らんのか！」だった。ことあるたびに私の無知を暴いては、叱っておられた。確かに先生の知識量は半

端ではなく、専門はもちろんのこと文学作品についても良く知っておられた。インドネシア語も流暢で、語学にも長けておられた。そんな先生と一緒に飲みに行ったある日、「鈴木君は良い研究をした」と論文を褒めていただいたのである。また本学卒業生で東京大学地震研究所の西山昭仁博士には、「西山君はよく頑張った」と。私たちは褒められて悪い気はしなかったが、何か以前との違いに戸惑っていた。「先生、二次会いきましょうか?」「ちょっと今日は疲れたので先に帰る。」そうおっしゃって帰路につかれる姿を見送ったのが最後になってしまった。

大谷大学准教授 鈴木 寿志

伊東慧明先生を偲んで



2013年10月12日、伊東慧明先生が逝去された。83年のご生涯であった。私が先生を最初にお見かけしたのは、東京での学生時代、本郷の大谷会館（現・親鸞仏教センター）であった。先生の名が広く知られるようになった『歎異抄の世界』第一巻が出版された1967年、

私は、大谷大学大学院に入学し、先生の授業に臨んだ。新進の助教授であった先生は、風呂敷に包んだ聖典を机上に置き、それを開くことなく『歎異抄』を朗唱しながら淡々と講義された。その姿は、旧本館（尋源館）のほの暗い教室の雰囲気と相まって、今も鮮明に想いだされる。先生は、曾我量深学長の補佐役として、当時、学監事務局長の重職にあったが、大学が直面した学園紛争の責任を取り、1970年、惜しまれつつ、大学を退かれた。

これに前後して、先生は、学内にある東方佛教徒協会（EBS）のスタッフとして、鈴木大拙先生の遺作『英訳教行信証』の編集・出版事業に挺身された。私が伊東先生にお近づきを得たの

は、この頃からである。EBSのオフィスで、海外からの留学生らとともに、『教行信証』の講義を拝聴するという幸恵をいただいた。

先生が生涯、師と仰いだのは、曾我量深先生であった。『浄土仏教の思想』第十五巻（講談社刊）における先生の曾我量深論は、今もって曾我研究の指標である。つい先年先生が、ご令息の恵深氏とともに出された『曾我量深講義録』（上下、春秋社）は、的確な解説とともに、真宗学の必読書となっている。先生、長い間、ご指導ありがとうございました。

大谷大学名誉教授 安富 信哉

滋野井恬先生を偲んで



2014年3月13日、滋野井恬先生が逝去された。享年83歳であられた。先生は大谷大学大学院に学ばれた後、1964年から1979年まで本学の教壇に立たれた。ご専門は中国唐代を中心とする仏教史でご著書に『唐代仏教史論』（平楽寺書店 1973年）がある。先生の印

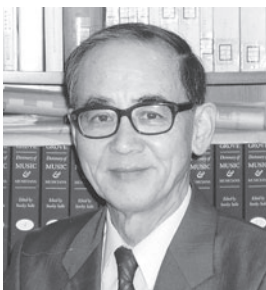
象として受講生に深く残っているのは、博覧強記でいらっしゃったことであろうか。一例ではあるが、ゼミ生の郷里を聞けばそこに関わる伝承や芸能を話題にされることしばしばであったし、あるゼミ生は12月初頭の授業をこっそり欠席するも翌日には「〈顔見せ〉に行ったのかな？」と苦もなく出かけた先を言い当てられてビックリ。また後年、中国五台山への調査旅行にご一緒した時には、山道を歩いていると不意に道端に屈み込まれ、なにやらしげしげとご覧になっていて「これがエーデルワイスだよ」と。いずれもその時々において、陰に陽に幅広い視野を持つことの大切さを一瞬にして、しかもさり気なくお示しくださったように思う。

ご葬儀の折、ご令息がご挨拶のなかで語られた「大変お行儀の良い父でございました。そしてその通りに逝った父でした」とのお言葉は、そのまま我々教え子が持つ先生のイメージを表現するにもふさわしく、在りし日の先生をより鮮明に思い浮かばせてくれた。

また先生は、金子大榮先生の『歎異抄領解』を座右の書としておられた。お別れの時、閉じられた眼の傍らに、まさしく韋編三絶のその書が納められていた。これもまた学問を好まれたお行儀の良い先生からのメッセージであるように思う。謝謝老師。

大谷大学教授 桂華 淳祥

滝本裕造先生を偲んで



滝本裕造先生は、2013年10月8日に逝去された。享年81歳であった。

お見舞いに行った時はお元気で、早朝にピアノの練習、そして中国語の勉強をされていて、“病人でないのに閉じ込められている。”とご立腹だった。先生は1932年7月京都市にお生まれ

で、1966年京都大学大学院（美学美術史専攻）を修了なされると同時に大谷大学短期大学部「幼児教育科」講師、次いで助教授、教授とすすまれ、音楽教科の責任者として19年間教鞭を執られた。その後、京都市立芸術大学教授。中国西安音楽学院荣誉教授。1998年停年退官後、「京都ベートーヴェン研究所」の主宰として69回の研究会を催され教導してこられた。

私が22歳の時に先生に出会い、そして長い年月、先生の学びに対する姿勢を尊敬し続けてきた。

滝本式ピアノ教本では、学生が授業で弾く課題曲すべてを写譜し、暗譜演奏に必死で取り組んでいた。私も厳しい滝本先生の前で緊張しながら必死で指

導していたことが懐かしく思われる。

思い出の著書と言えば『偉大なる普通人—ほんとうのベートーヴェン』（K B社）だが、誰にでも解り易く書かれており、常に私の手の届くところにある。お身体は消えてしまったが、先生の存在は常に語りかけてくださる。

古巣である大谷大学の図書館に青年のごとくよく通われ、研究資料を読まれていた。又、幼フェスも観てくださったこともあり、“大谷大学 大好き”な先生でした。

偉大なるベートーヴェン研究者に、心より哀悼の意を表します。

元大谷大学短期大学部教授 豊住 征子

クラブ紹介



華道部の稽古風景

華道部の活動

こんにちは、大谷大学華道部です。私たちは池坊の先生にご指導をいただきながら、華道の技術の修得を目指すとともに、お花と触れ合うことによって、日々の生活においてもお花を楽しむことを目指して活動しています。活動の中心はお稽古と自主練習であり、池坊におけるいけばなの様式のうち、決められた型があるなかで表現する生花と、自分の思いを自由な形であらわす自由花を行っています。どちら

もちがった魅力があり、一人ひとりがお花に向き合いながら、お花をいける活動に取り組んでいます。

また、活動の際にいけたお花は学内に展示しており、活動の様子を部活動に直接関わる方以外にも感じていただけるよう努めています。しかしながら、活動の際の展示だけでは華道部の存在をアピールできていないようで、展示を知らない学生も多いようです。そのためか、事実上廃部となった一時期に比べれば部員数は多いものの、部員の減少は切実な問題となっています。今年度は今まで参加をしてこなかった学内行事への参加を計画するなど、より多くの方に活動を見ていただけるような工夫をしようと、私自身方法を模索しているところです。華道という日本の伝統に、学生が触れる機会となる部活動の流れが失われることの無いよう、部員一同で取り組んでいきたいと考えています。これからも、どうか我々華道部を見守りいただきますよう、よろしく申し上げます。

大谷大学華道部 部長 多田 亮熙

「書道部の今！」

わたしたち書道部は、顧問に大秦一浩先生、技術顧問に松井元伸先生を迎え男子12名・女子11名の合計23名で活動を行っています。

普段の活動は日曜日（錬成会）・木曜日（批評会）です。錬成会では、初めは和気あいあいとしているのですが、やるべきときは松井先生のご指導のもと、皆真剣に自分の課題に取り組んでいます。批評会では日々の成果を松井先生に見ていただき、それぞれアドバイスをいただいております。そのアドバイスを基に、より自分の作品の完成度を高め、技術の向上を目指しています。

毎年6月後半に渉成園の閨風邸で朱明展を行っています。先輩方もご存じの通り渉成園は大谷大学の主母体で

ある東本願寺の別邸です。その渉成園で展示会を開催させていただけることへの感謝を忘れず、日々の作品作りに打ち込んでいます。また11月に開催される学園祭のときには学内展を行っています。その年の集大成となる作品なので、練習により一層の力が入ります。

大学の正門と北門の側に置かれている今月の言葉が書かれている看板は、毎月部員でローテーションを組んで書いています。機会があれば是非ご覧ください。

以上のように私たちは日々練習を積み重ねています。今後とも書道部の活動を見守っていただくと幸いです。

大谷大学書道部 部長 岡本 芽依



松井先生と書道部員

課外活動の成績等について

大谷大学のホームページに掲載されていますので
ご覧ください。

<http://www.otani.ac.jp/clubs/>

教育振興資金(募金)への御礼

大谷大学・大谷大学短期大学部では、教育研究環境の一層の充実を図るために「教育振興資金局」を設置し、募金活動を行っています。このたびはご協力いただき誠にありがとうございます。ご寄付いただきました資金は、教育・研究の充実を図るための環境整備に充ててまいります。なお、本学は文部科学大臣から、特定公益増進法人の証明（所得控除制度）、並びに税額控除に係る証明（税額控除制度）を受けていますので、寄付者の選択により、どちらか一方の税法上の減免税措置を受けることができます。

今後も引き続き、募金のお申し込み受け付けを行っておりますので、ご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。2013年8月1日から2014年7月31日までの間に、ご寄付いただきました方々のご芳名は次のとおりです。厚く御礼申し上げます。

◆件数 82件

◆寄付金総額 15,785,000円

2013年度分〔教育振興資金寄付者（敬称略）〕（2013年8月1日～2014年3月31日）

青木 智了(福岡県) 秋友 伸二(香川県) 浅田 純(長崎県) 天山 敬信(愛知県) 井上 敬博(京都府) 上田 隆雄(京都府)
太田 利雄(長野県) 大野 康正(岡山県) 大前 次男(京都府) 岡 修次(徳島県) 尾崎 瞳(鳥取県) 桑原 英世(栃木県)
兒玉 義仁(岐阜県) 小柳 謙治(佐賀県) 佐長 光祥(香川県) 佐々木ひとみ(新潟県) 杉生 闌祐(福岡県) 高橋 達也(山口県)
高橋 陽一(兵庫県) 高山 竜嗣(大阪府) 田中 康進(大阪府) 鎮西 良昭(新潟県) 土橋 賢治(大阪府) 野田 成宣(群馬県)
橋根 勝義(愛媛県) 古川 徳司(京都府) 松代 暢(石川県) 裸 正人(滋賀県) 南 誠一(福井県) 門間 佳一(北海道)
山本 政男(兵庫県) 吉川 一憲(岐阜県)

赤レンガの会(昭和37年大谷大学入学同期会)

赤松 秀隆 秋月 亨観 大野 龍天 小田 旨隆 桑田 和夫 霜田千代磨 杉浦 立美 鈴木 専英 竹林 正憲
千葉 孝一 中杉 隆臣 畠山 恵俊 日野 益良 廣岡 恵雄 福島南美子 武鹿 照孝 藤田 浄元 星津 英昭
光林 忠明 頼尊 聖

廣圓寺〔大谷 純〕(大分県) 光明坊〔勝間 靖〕(岡山県) 正覚寺〔島添 信生〕(福岡県) 真勝寺〔東山 正賢〕(青森県)

大願寺〔北 秀継〕(北海道) (有)石間企画事務所(東京都) NPO法人 尋源舎(京都府) 相山合資会社(東京都)

匿名(個人19件、団体3件)

◆件数 63件

◆寄付金総額 4,220,000円

2014年度分〔教育振興資金寄付者（敬称略）〕（2014年4月1日～2014年7月31日）

岩本 三郎(京都府) 岡村 伸夫(京都府) 荻原 久夫(長野県) 雲井 昭善(滋賀県) 成田 敦(静岡県) 難波 明則(大阪府)
野口 文雄(愛知県) 畠中 貴達(奈良県) 本川 達也(岐阜県) 保田多佳子(新潟県) 安富 豊(京都府) 山崎 恵(新潟県)
光徳寺〔高橋 法信〕(大阪府) 大谷大学同窓会三条支部(新潟県) (株)フラットエージェンシー(京都府)

匿名(個人4件)

◆件数 19件

◆寄付金総額 11,565,000円

※ご寄付につきましては随時受け付けています。

【お申し込み／お問い合わせ先】教育振興資金事務局

京都市北区小山上総町
大谷大学校友センター内
TEL 075-411-8124

雲井奨学金の運用と追加寄付

雲井昭善名誉教授からの寄付金を財源とした雲井奨学金に奨学生として8名の学生が採用されました。

2013年10月12日に授与式が行われ、終了後には雲井先生を囲んで奨学生との懇談会が行われました。

先生から「若いうちは視野を広く持って、様々なことに挑戦してほしい。そうして大学の4年間は自分の在り方を模索していただいて、将来はいろいろなところで活躍してほしい」と激励がありました。

雲井奨学金は、人物・学業成績が優秀、かつ学費の支弁が困難な学生に給付される奨学金です。このたび雲井先生から学長に対して



雲井先生との懇談会(2013年10月12日)

追加寄付の表明がなされ、5月23日に雲井先生より1000万円の追加寄付をいただき、より継続的に奨学金給付が可能となりました。

2014(平成26)年度大谷大学博物館展覧会のご案内

●特別展 「戦国武将と神仏」

会期 2014年10月11日(土)～11月29日(土)

休館日 日曜日・月曜日

※10月12日(日)・11月23日(日)・24日(月)は開館

開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)

●冬季企画展 「京都を学ぶー山田文昭コレクション展ー(仮)」

会期 2014年12月9日(火)～2015年2月14日(土)

休館日 日曜日・月曜日、12月26日(金)～1月3日(土)、1月17日(土)、2月11日(水・祝)

開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)

大谷大学博物館 〒603-8143 京都市北区小山上総町 電話:075-411-8483
http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

2014年度後期 大谷大学生涯学習講座のご案内

大谷大学では、本学の知的資産を基盤とした生涯学習講座を開講しています。本学ならではの宗教・信仰を求めていく講座、現代社会をいかに生きるのかをテーマとする講座、京都の文化の奥深さを知る講座など、切り口は多様ですが、共通するテーマは「人間」です。大谷大学の生涯学習講座にご期待ください。

開放セミナーのご案内

1	テーマ	シリーズ『教行信証』の思想②総序・教巻を読む
	講師	木越 康(大谷大学教授)
	開講日	10月29日・11月26日・1月7日 すべて水曜日
	時間	18:00～19:30
	定員	100名(先着順)
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	4,000円(税込)
	申込締切	10月15日(水)必着(申込多数の場合、申込締切日以前であっても受付を終了することがあります)

2	テーマ	超高齢社会を生きぬく条件
	講師	山下 憲昭(大谷大学教授)
	開講日	11月4日・11月11日・11月25日 すべて火曜日
	時間	18:00～19:30
	定員	100名(先着順)
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	4,000円(税込)
	申込締切	10月28日(火)当日消印有効(申込多数の場合、申込締切日以前であっても受付を終了することがあります)

2	テーマ	シリーズ世界の仏教④中国史における仏教 (協賛：NPO法人「尋源舎」)
	講師	浅見 直一郎(大谷大学教授)
	開講日	10月15日・11月12日・12月10日・1月14日・2月18日・3月4日 すべて水曜日
	時間	18:00～19:30
	定員	100名(先着順)
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	8,000円(税込)
	申込締切	10月1日(水)必着(申込多数の場合、申込締切日以前であっても受付を終了することがあります)

3	テーマ	アイヌ民族と共に
	講師	泉 恵機(大谷大学客員教授)
	開講日	1月15日・1月22日・1月29日 すべて木曜日
	時間	16:30～18:00
	定員	100名(先着順)
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	4,000円(税込)
	申込締切	1月8日(木)当日消印有効(申込多数の場合、申込締切日以前であっても受付を終了することがあります)

3	テーマ	恋はいのち—西鶴『好色五人女』の世界—
	講師	沙加戸 弘(大谷大学名誉教授)
	開講日	10月30日・11月6日・11月13日・11月27日・12月4日・12月11日 すべて木曜日
	時間	18:00～19:30
	定員	100名(先着順)
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	8,000円(税込)
	申込締切	10月23日(木)当日消印有効(申込多数の場合、申込締切日以前であっても受付を終了することがあります)

4	テーマ	日本哲学への案内
	講師	竹花 洋佑(大谷大学非常勤講師)
	開講日	1月13日・1月20日・1月27日 すべて火曜日
	時間	14:00～15:30
	定員	100名(先着順)
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	4,000円(税込)
	申込締切	1月6日(火)当日消印有効(申込多数の場合、申込締切日以前であっても受付を終了することがあります)

紫明講座のご案内

1	テーマ	はじめて学ぶ中国古典詩
	講師	乾 源俊(大谷大学教授)
	開講日	2月10日・2月17日・2月24日 すべて火曜日
	時間	18:00～19:30
	定員	100名(先着順)
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	4,000円(税込)
	申込締切	2月3日(火)当日消印有効(申込多数の場合、申込締切日以前であっても受付を終了することがあります)

5	テーマ	日本建築を変えた技術
	講師	登谷 伸宏(京都橘大学文学部歴史遺産学科助教/大谷大学非常勤講師)
	開講日	11月21日・12月5日・12月12日 すべて金曜日
	時間	18:00～19:30
	定員	100名(先着順)
	会場	響流館3F メディアホール
	受講料	4,000円(税込)
	申込締切	11月14日(金)当日消印有効(申込多数の場合、申込締切日以前であっても受付を終了することがあります)

【申し込み方法】

講座案内パンフレットのご請求は、①氏名・フリガナ、②郵便番号・住所、③電話番号、④パンフレット希望、と明記の上、ハガキ、FAX、E-mailのいずれかにて下記までお知らせください。また講座をお申し込みの場合は、①氏名・フリガナ、②郵便番号・住所、③電話番号、④講座名、を明記の上、下記までお知らせください。

【申し込み/問い合わせ先】

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学教育研究支援課 MU係
TEL: 075-411-8161 (直通) FAX: 075-411-8162 E-mail: o_semi@sec.otani.ac.jp

ゼミ・クラス等同期会 OB・OG会

恩師を
囲んで



浄影会（古田ゼミ同窓会）（2013.8.3）

2年ぶりに古田先生をお招きしての同窓会。ひととき学生時代を思い出して、大いに盛り上がりました。



昭和60年3月卒業 渡辺ゼミ同窓会（2013.8.14）

卒業して早や28年。でも、会えば気持ちは大学生！今回、お仕事や介護等で参加できなかった方、来年8月14日にお会いしましょう。



昭和39年3月卒業 第12回社会学教室 同窓会（2013.8.19）

京料理「木乃婦」に於て。50年前の話になつかしく、楽しく一夜を過ごしました。



昭和37年文学部入学同期会 「赤レンガの会」（2013.8.20～21）

古稀を迎え、第3回「赤レンガの会」を開催。法務多忙の方、病氣療養の方。出席者は減りました。追悼する方々は多く…。2014年は会津若松での再会を約しました。

大谷大学体育会剣道部 講武会・総会
（2013.8.24）

近藤前監督の追弔会を尋源講堂でお勤めした後、道場でOB・OGと現役の合同稽古を行いました。



ゼミ・クラス等同期会、OB・OG会開催一覧

開催日時	会 合 名	開催日時	会 合 名	開催日時	会 合 名
2013. 8. 3(土)	浄影会(古田ゼミ同窓会)	2013.11.13(水)	昭和39年度入学 大谷大学下鴨学寮 ～ 14(木) 同窓の集い	2014. 5. 8(木)	バスケットボール部(1970～1978 ～ 9(金) 年入学)OB 訓覇嘩雄先生を囲む会
2013. 8.14(水)	昭和60年3月卒業 渡辺ゼミ同窓会	2013.11.23(土)	大谷大学陸上競技部 創部90周年記 念総会①	2014. 5.11(日)	昭和49年度入学 短期仏教科 同期会
2013. 8.19(月)	昭和39年 3月卒業 第12回社会学 教室 同窓会		「京都学生駅伝を中心に陸上部史を 振り返る」	2014. 5.14(水)	大谷大学短期大学部 国文科第一期 生同窓会(山本唯一ゼミ)
2013. 8.20(火)	昭和37年文学部入学同期会「赤レ ンガの会」	2013.11.23(土)	バレーボール部OB・OG会	2014. 5.31(土)	第38回 浄眼洞(山田亮賢先生門下 ～ 6. 1(日) 生の会)
2013. 8.24(土)	大谷大学体育会剣道部 講武会・総会	2013.12. 2(月)	廣瀬果先生 三回忌法要(廣瀬ゼミ)	2014. 6. 7(土)	安富信哉先生 古稀記念祝賀会
2013. 8.26(月)	下鴨寮43年入寮生の会 in 金沢&富山 ～ 28(水)	2013.12.15(日)	豊島修先生を囲む会	2014. 6. 7(土)	平成8年卒業 大谷大学短期大学部 仏教科 同窓会
2013. 8.27(火)	櫻部建先生を偲ぶ会	2013.12.28(土)	2010年度卒業 大谷大学 文学部文 学科 同窓会	2014. 6.11(水)	育英学寮 1968年・1969年入寮者 同窓会
2013. 8.31(土)	加治ゼミ同窓会(2005～2010年度 ～ 9. 1(日) 卒業)	2014. 2.13(木)	大谷大学陸上競技部 創部90周年記 念総会②	2014. 6.25(水)	昭和41年入学 育英寮 同期会
2013. 9. 7(土)	昭和50年3月卒業 文学部史学科東 洋史 同窓会	2014. 2.15(土)	池上ゼミ 謝恩会	2014. 6.28(土)	大谷大学仏教青年会OB・OG会(1970 ～ 1977年入学)
2013. 9.10(火)	道交会(柔道部OB・OG会)	2014. 2.20(木)	木村宣彰先生 古稀記念祝賀会(木 村ゼミ大学院)	2014. 6.29(日)	雲井昭善先生の百寿を祝う会
2013. 9.28(土)	大谷大学卓球部後援会卓球大会、 総会・懇親会	2014. 2.27(木)	男声合唱団OB会(コールリンデン クラブ)総会・懇親会	2014. 7. 1(火)	福島光哉先生を囲む会(如是会)
2013. 9.29(日)	混声合唱団 OB・OG総会	2014. 2.28(金)	知真学寮同期会(1995年入寮)	2014. 7. 5(土)	宮崎ゼミ16期生 同期会
2013. 9.29(日)	大谷大学専門部昭和21年度卒業 同期会	2014. 3. 1(土)	大谷大学・大谷大学短期大学部 延塚 ゼミ・クラス	2014. 7.10(木)	昭和42年(1967年)入寮 洗心学寮 同期会 IN 北海道
2013.10. 5(土)	国文学会 懇親会	2014. 3. 4(火)	延塚知道先生 最終講義ならびに謝恩会	2014. 7.12(土)	昭和59年入学 I-G同窓会
2013.10.12(土)	史学科東洋史学分野 藤島ゼミ 1987-1990年卒業生合同同期会	2014. 3. 4(火)	宮下晴輝教授 最終講義ならびに謝 恩会	2014. 7.20(日)	1991年3月卒 大谷大学 東洋史学 同窓会
2013.10.12(土)	2011年卒業 安井ゼミ同期会	2014. 3. 8(土)	加治ゼミ同窓会(2006～2011年卒業)	2014. 7.22(火)	知真学寮一期生 第3回同期会 in 北 ～ 23(水) 海道
2013.10.12(土)	2001年度入学 貴練・自灯学寮 合同同窓会	2014. 3. 8(土)	2008年度東館ゼミ卒業生同窓会		
2013.11. 9(土)	2009年大学院(修士)入学 同期会	2014. 3. 8(土)	佐賀枝夏文先生 最終講義ならびに 謝恩会		
2013.11. 9(土)	第38回 谷雪会(大谷大学スキー 競技部OB・OG会)	2014. 3. 8(土)	幼児教育科第7期生クラス会 ～ 9(日)		

開催をお世話いただく幹事さんへ

◆「ゼミ・クラス等同期会」「OB・OG会」等を開催されるときは、事前にご連絡ください！

事務局は、大谷大学「尋源館」2階にあります

大谷大学同窓会本部事務局 (大谷大学総務部「校友センター」内)

<連絡先>TEL: 075-4111-8124 (直通)

FAX: 075-4111-8157 (直通)

E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

※電話・FAX・メール等、ご都合の良い手段でご連絡ください。

◆まずは、開催1か月前までに「同期会届」「OB・OG会届」をご提出ください。

◇「同期会」としてお届けいただくためには、その団体の全対象者にご案内をされていることが前提となります。

◇クラブの「OB・OG会」は、すべての年度の卒業生を対象としてご案内ください。

◇「開催届」の提出と上記の内容を満たしている団体には、通信費の一部として「開催助成費」を補助しています。

◆同窓会本部事務局では、こんなお手伝いができます。

1. 申請により、連絡用名簿・宛名ラベルを提供することができます。

◇「同窓会本部への申請書 提出」より「名簿・宛名ラベルのお届け」までは、1週間～10日程度かかります。
(事務の都合上、それ以上かかる場合もございます。)

2. 大学の施設を、同期会の会場として利用できます。

◇授業・大学行事等の関係上、利用できない場合があります。

利用を希望される場合は、日程等を決定する前に、同窓会本部事務局へご相談ください。

3. ホームページ「無盡燈」に開催予定・報告を掲載します。

同窓会報『無盡燈』には、写真とともに開催結果を掲載します。

「ゼミ・クラス等同期会」「OB・OG会」についての詳細は、
同窓会本部事務局までお気軽にお問合せください。



下鴨寮43年入寮生の会 in 金沢 & 富山 (2013.8.26 ~ 28)
春近寮監さんの古希をお祝いしました。鈴木大拙館では、木村宣彰館長さんにご案内いただき見学しました。次回は愛知、静岡で。



櫻部建先生を偲ぶ会 (2013.8.27)
昨年6月に還浄されました櫻部建先生を師と仰ぐ仲間が長年輪読会を行ってきた高倉会館に集まり、法要を営みました。ご指導いただいたことに、皆感謝。



昭和50年3月卒業 文学部史学科東洋史 同窓会 (2013.9.7)
1年ぶりの再会です。今回は大谷大学訪問も兼ね、懐かしい場所もあり感慨もひとしおでした。藤島先生、喜寿おめでとうございます。



加治ゼミ同窓会 (2005 ~ 2010年度卒業) (2013.8.31 ~ 9.1)
少人数の開催となりましたが、その分アットホームな同窓会になりました。書道や研究発表会も行い、とても楽しいひと時でした。



道交会 (柔道部OB・OG会) (2013.9.10)
今年の総会直前に、名誉会長であり、柔道部の師範でもある廣川彰恩先生がお亡くなりになり、永年のご功績を偲ぶ会となりました。

苦勞はいもんや 一團法の生活

水島見一 著 定価 一、八〇〇円十税

『浄土論註』の思想究明 一親鸞の視点から

延塚知道 著 定価 三、八二〇円十税

講讀 浄土論註 第一巻

延塚知道 著 定価 二、八〇〇円十税

講讀 浄土論註 第二巻

延塚知道 著 定価 二、八〇〇円十税

寺川俊昭選集 全11巻・別巻

寺川俊昭選集刊行会編 各巻定価 五、一三〇円十税

第一巻 清沢清之論 第二巻 歎異抄論

第三巻 教行信証論 I 第四巻 教行信証論 II

第五巻 教行信証論 III 第六巻 親鸞論 I

第七巻 親鸞論 II 第八巻 親鸞論 III

第九巻 僧伽論・蓮如論 第十巻 近代教學論

第十一巻 雑誌『親鸞教學』掲載論文集

別巻 補遺(浄土の教団・学びの足跡他)

文栄堂

〒604-8091 京都市中京区寺町通三上土倉
電話 075-23314712
FAX 075-23315243
Email bunrei@dotnet.ne.jp

いのち みなもと
「生命の玄」

食事を大切にする。
食事を大切に考えて作る。
食事する人を大切に思っ作る。
それが典座の精神、私たちの仕事です。

〒612-8429 京都市伏見区竹田西段川原町89
TEL 075-643-5700 FAX 075-643-5698
URL : http://www.tenzo.co.jp

株式会社 典座 Tenzo
HAPPY COOK

※いつもご利用賜りまして誠にありがとうございます。平成7年より大谷大学学生食堂とBig Valley Cafeを運営させて頂いております。



大谷大学卓球部後援会卓球大会、総会・懇親会 (2013.9.28)

例年同様に卓球大会も開催。まだまだ現役さながらのフットワークをお持ちでした。懇親会においても楽しいひと時を過ごしました。



混声合唱団 OB・OG総会 (2013.9.29)

12月1日にエンゼルホールで行われる創団45周年演奏会にむけたOB・OG合同ステージの練習と、総会を開催しました。



大谷大学専門部昭和21年度卒業 同期会 (2013.9.29)

第二次世界大戦終戦の翌年9月専門部卒の同期会。全員学徒動員で寮生活を送り、終戦を大阪造兵廠(兵器工場)で迎え大空襲も経験した仲間だけに話題も尽きなかった。



国文学会 懇親会 (2013.10.5)

国文学の卒業生が集い、盛大に行われました。石橋義秀先生のご講演のあと、学内食堂で懇親会が行われました。



史学科東洋史学分野 藤島ゼミ 1987-1990年卒業生合同同期会 (2013.10.12)
次回は3年後にお会いしましょう。



2011年卒業 安井ゼミ同期会 (2013.10.12)
卒業して2年半が過ぎました。大学生時代が懐かしい！今はそれぞれの道を進んで頑張っています☆



2001年度入学 貫練・自灯学寮 合同同窓会 (2013.10.12)
木越先生と貫練・自灯メンバーで、久しぶりに楽しい時間を過ごしました。次は35歳になったら集まりましょう！



2009年大学院(修士)入学 同期会 (2013.11.9)
大学院を修了し、初めての同期会でした。当日は遠方からも集まり、学生時代の話から近況などで話に花が咲きました。ウェスティンのフルコースにも舌鼓。



第38回 谷雪会 (大谷大学スキー競技部OB・OG会) (2013.11.9)
来シーズンからの新監督が選出されました。現役、OB、OG、一丸となり、これからもスキー競技部の繁栄を誓いました。



昭和39年度入学 大谷大学下鴨学寮同窓の集い (2013.11.13～14)
11月13日、下鴨学寮同窓の集いを新潟で開催。曾我量深記念館を訪問後、宿では遅くまで語り合いました。



大谷大学陸上競技部 創部90周年記念総会①「京都学生駅伝を中心に陸上部史を振り返る」(2013.11.23)
駅伝は谷大陸上部のタスキをつなぐ大切な瞬間。現役部員によって陸上部の思いを乗せたタスキが連綿と受け繋がることを期待します。



バレーボール部OB・OG会 (2013.11.23)
第37期OB・OG会を開催致しました。若い現役達と一つのボールを「繋ぐ」、OB・OG達の思いを「繋ぐ」有意義なひと時となりました。



廣瀬 杲先生 三回忌法要(廣瀬ゼミ) (2013.12.2)
廣瀬 杲先生が多くの講演をされた高倉会館を会場に、先生の三回忌法要をゼミ生ほか多くの方の出席のもと勤修しました。法要に際し真宗大谷派に御協力いただいたことをお礼申し上げます。



豊島修先生を囲む会 (2013.12.15)
豊島修先生の古稀を祝して、豊島ゼミの卒業生が集いました。先生の精力的な執筆活動聞き、ますますのご活躍を期待するばかりです。卒業生も負けずに頑張ります。



2010年度卒業 大谷大学 文学部文学科 同窓会 (2013.12.28)
卒業以来会っていなかったという声も多く聞かれる中、沙加戸先生・村瀬先生を囲み、お互いの近況や思い出話に花を咲かせました。



池上ゼミ 謝恩会 (2014.2.15)
大学で最終講義後、謝恩会を開催しました。池上先生を慕う幅広い年代の卒業生の出席を得て、池上ゼミらしい楽しい謝恩会となりました。次回は、先生の古稀祝いでお会いしましょう。

大谷大学陸上競技部 創部90周年記念総会② (2014.2.13～15)
陸上競技部90周年記念行事第2弾を、去る2月15日に行いました。響流館1階行事は恒例のOB・OGと現役が「共に」走る谷大ランに始まり、物故者追弔会、記念総会、記念トークイベントを行いました。また夜は京都タワーホテルで記念パーティを行い、多くのOB・OGの方々にお集まりいただきました。



木村宣彰先生 古稀記念祝賀会(木村ゼミ大学院) (2014.2.20)
木村宣彰先生の古稀と鈴木大拙館の館長就任をお祝いし、大学院木村ゼミ修了生や、先生の大学院の授業の聴講生を中心に集まりました。



男声合唱団OB会(コールリデンクラブ) 総会・懇親会 (2014.2.27)
昨年の「ありがとう!大谷ホール」に続き、今年も80回目の定演を機に、世代を越えて仲間が集まり、再会をよろこび合いました。



知真学寮同期会 (1995年入寮) (2014.2.28)
佐賀枝先生への謝恩会を兼ねて、同期会を開催。久しぶりに寮生に出会い、学生のような楽しい時間を過ごすことができました。



大谷大学・大谷大学短期大学部 延塚ゼミ・クラス 延塚知道先生 最終講義ならびに謝恩会 (2014.3.1)
全国各地からゼミ生が集まり、最終講義「よき師よき友-親鸞の求道を通して-」を拝聴した後、謝恩会では大いに盛り上がりました。



宮下晴輝教授 最終講義ならびに謝恩会 (2014.3.4)
尋源講堂にて行われた最終講義題目は「仏教学研究をふりかえって」。講義終了後、ホテルグランヴィア京都にて謝恩会を開催した。



加治ゼミ同窓会（2006～2011年卒業）（2014.3.4）
「滌蕩す、千古の愁い。留連す、百壺の飲。良宵、宜しく清談すべし」とはまさに今回の会に相応しい。



2008年度東館ゼミ卒業生同窓会（2014.3.8）
2年ぶりに集い、東館先生、杉本先生を囲みながら夜遅くまで話に花を咲かせました。2014年度も集まりましょう。



佐賀枝夏文先生 最終講義ならびに謝恩会（2014.3.8）
佐賀枝夏文先生の最終講義と謝恩会を開催しました。卒業生を中心に先生方や大学内外の関係者を含め、総勢70名の参加となりました。



幼児教育科第7期生クラス会（2014.3.8～9）
卒業より40年を経て還暦を迎えた記念に開催しました。斉藤先生もご臨席頂き楽しい会になりました。次回は出雲での予定です。



バスケットボール部（1970～1978年入学）OB 訓覇嘩雄先生を囲む会（2014.5.8～9）
訓覇嘩雄先生がバスケ部男子の顧問をされていた期間にご指導を受けた仲間が集い、思い出話に笑いがたえない時を過ごしました。



昭和49年度入学 短期仏教科 同期会（2014.5.11）
晴天に恵まれ、先生を含めて11名の同窓会でした。時間の過ぎるのが早く、次回は来年、先生の傘寿の祝いで開催することを決めました。



大谷大学短期大学部 国文科第一期生同窓会（山本唯一ゼミ）（2014.5.14）
5月14日、新緑の京都にて開催。尋源館にて故人の先生方や学友の法要をいたしました。会では青春に戻ったように話が尽きないまま時間になり、2年後の再会を約束し、御開きとなりました。



第38回 浄眼洞（山田亮賢先生門下生の会）（2014.5.31～6.1）
今年も京都に集まりました。最年少の参加者がなんと還暦。何年経っても話題はいつも始めから終わりまで華厳経、そして佐々木月樵先生。不変です。



安富信哉先生 古稀記念祝賀会

2014年6月7日

安富信哉先生 古稀記念祝賀会 (2014.6.7)

「安富信哉先生 古稀記念祝賀会」を安富ゼミ同窓会（三福会）が中心となり開催しました。76名の出席者があり、盛大な会となりました。



平成8年卒業 大谷大学短期大学部仏教科 同窓会 (2014.6.7)

18年振りの再会に大盛り上がり!! 人生山あり谷あり。それぞれみんな、大人になっていました。本当に楽しいひと時を有り難う!!



育英学寮 1968年・1969年入寮者同窓会 (2014.6.11)

卒寮以来初めての同窓会。東大谷で各期の物故者追弔法要（導師 片野道雄元寮監）を勤め、懇親会は敬称略の名を連呼し、盛り上がりました。



昭和41年入学 育英寮 同期会 (2014.6.25~26)

昨年は空振り。2年ぶりの開催は和倉温泉「加賀屋」。11度目を数え、今後、何度重ねられるかが話題になりました。



大谷大学仏教青年会OB・OG会 (1970~1977年入学) (2014.6.28)

30年ぶりに先生を囲んで満ち足りた時を過ごしました。ここに僧伽があり、私たちの原点を再確認しました。



雲井昭善先生の百寿を祝う会 (2014.6.29)

雲井先生の百寿を祝う会を開催した。先生には益々ご壮健であり、恩師との語らいは往時を偲び、時が経つのを忘れることであった。



福島光哉先生を囲む会（如是会）（2014.7.1）
福島ゼミ「如是会」。7月1日、ホテル平安の森京都にて、25名参加。恩師を囲んでの楽しいひと時でした。



宮崎ゼミ16期生 同期会（2014.7.5～6）
毎年恒例となった7回目の同期会。あいにく参加人数は少なかったですが、先生を囲んでの楽しいひとときとなりました。



昭和42年（1967年）入寮 洗心学寮同期会 IN 北海道（2014.7.10）
小川一乗寮監先生を囲んで、登別温泉に浸りながら楽しい一時を過ごしました。来年は北陸開催の予定です。



昭和59年入学 I-G同窓会（2014.7.12）
入学して知り合い30年になる記念に集まりました。少人数でしたが大変盛り上がりしました。



1991年3月卒 大谷大学 東洋史学 同窓会（2014.7.20）
祇園祭で賑わう京都で2年8ヶ月ぶりの再会。恩師を交えて年甲斐もなく午前様まで頑張りました。



知真学寮一期生 第3回同期会 in 北海道（2014.7.22～23）
第3回目の同期会を開催しました。北海道出身の6人は、全員参加です。それぞれが50歳に手の届く年になってきました。

本部報告

2014年度 同窓会総会開催【報告】

2014年5月9日（金）13時30分より、博綜館第1会議室において、本年度の同窓会総会が開催されました。

議長には大分支部長の相馬温氏が選出され、各議案について活発な審議をいただき、それぞれ承認を得ました。

1. 2013年度「事業報告」および「収支決算報告」
(下記「収支決算書」参照)
2. 同窓会活動企画推進委員会に関する件
稲垣俊一第1部会長、宮崎健司

常務理事から、赤レンガ100周年記念「第18回ホームカミングデー」の報告がなされた後、「第19回ホームカミングデー開催要項（案）」が提案され、承認されました。

続いて、柴田達也第2部会長、一楽真常務理事より、部会の活動報告として「支部総会および夏季八十講」ならびにNPO法人「尋源舎」の活動について報告がなされ、承認されました。

理事会（2013年12月18日開催）での提案を受け、2月24日に開催された「各部会」ならびに「両部会の合同部会」において、2003年度より現在まで検討されてきた「検討課題の進捗状況」について、確認が行われた旨それぞれの部会より報告がなされました。

3. (仮称) 将来構想委員会の件
第2号議案での「検討課題の進捗状況」についての部会報告を受け、織田顕祐理事長から、以下の

ことが提案され、承認されました。

- ・大谷大学同窓会「電子連絡網構築推進プロジェクト（仮称）」を設置し、2014年12月開催の理事会への答申を予定している。
 - ・12月開催される理事会の後、「大谷大学同窓会将来構想委員会（仮称）」立ち上げの準備を行い、2015年度に「大谷大学同窓会将来構想委員会（仮称）」を設置する。
 - ・「大谷大学同窓会将来構想委員会（仮称）」の内容については、理事会・常務理事会において検討を加え、2015年の総会に報告する。
4. 2014年度「事業計画」および「収支予算(案)」(下記「収支予算書」参照)
 5. その他
・特になし。

2013年度
大谷大学同窓会本部収支決算書

【収入の部】 (単位 円)	
科目	決算額
1. 前年度繰越金	10,505,914
2. 会費	26,751,000
会費(1)	1,311,000
会費(2)	25,440,000
3. 入金金	4,245,000
4. 寄付金	1,457,542
5. 出版物等売上金	0
6. 雑収入	713,481
合計	43,672,937

【支出の部】 (単位 円)

科目	決算額
1. 事業費	12,134,202
本部事業費	3,481,622
支部事業助成費	4,405,675
同期会・OB会等開催助成費	440,000
学生会助成費	500,000
新入会員歓迎費	3,306,905
2. 刊行費	3,437,005
無盡燈刊行費	2,674,529
印刷製本費	762,476
3. 事務費	3,106,658
本部事務局費	3,255
活動費	420,000
通信費	2,683,403
4. 旅費	6,760,710
5. 会議費	1,328,494
6. 委託費	1,634,033
7. 雑費	302,589
8. 同窓会基金への繰入支出	200,344
9. 同窓会活性化準備金	2,516,468
10. 予備費	0
合計	31,420,503

繰越金(2014年度へ繰越) 12,252,434

2014年度
大谷大学同窓会本部収支予算書

【収入の部】 (単位 円)	
科目	予算額
1. 前年度繰越金	12,252,434
2. 会費	25,740,000
会費(1)	1,140,000
会費(2)	24,600,000
3. 入金金	4,100,000
4. 寄付金	900,000
5. 雑収入	327,566
合計	43,320,000

【支出の部】 (単位 円)

科目	予算額
1. 事業費	15,790,000
本部事業費	4,890,000
支部事業助成費	4,900,000
同期会・OB会等開催助成費	900,000
学生会助成費	500,000
新入会員歓迎費	4,600,000
2. 刊行費	5,240,000
無盡燈刊行費	3,540,000
印刷製本費	1,700,000
3. 事務費	4,904,000
本部事務局費	70,000
活動費	444,000
通信費	4,390,000
4. 旅費	9,140,000
5. 会議費	2,080,000
6. 委託費	2,350,000
7. 雑費	640,000
8. 同窓会基金への繰入支出	1,150,000
9. 同窓会活性化準備金	1,500,000
10. 予備費	526,000
合計	43,320,000



同窓会総会(博綜館第1会議室)

赤レンガ100周年 記念行事 開催報告

1901年に東京巢鴨で開学した本学は、1913年にこの「上賀茂小山」の現在地に移転しました。また「赤レンガ～尋源館(旧本館)～」は、同年の11月9日に落成式を行いました。

そこで2013年の11月9日(土)に「赤レンガ」が100周年を迎えたことを記念し、同窓会でも記念行事を行いました。

12時30分より16時まで、同窓会

が主催する赤レンガ100周年記念「第18回ホームカミングデー」が開催されました。

また、16時20分より18時10分まで本学講堂において、大谷大学の主催行事である「赤レンガ100周年記念講演会」が開催されました。水島見一教授が『「清沢先生を父とし 南条先生を母とする」大学』、鷺田清一教授が、『変わるものと変わらないもの—大学—の未来』という講題で講演されました。同窓生・教職員に加え、一般市民の方々など大変多くの来場がありました。



記念講演(水島教授)



記念講演(鷺田教授)

その後、18時30分から20時まで、大谷大学と同窓会の共催行事である「赤レンガ100周年 記念パーティー」が開催されました。

大谷大学はこの100年間、この地で「赤レンガ」に見守られながら、地域住民の方々と共に歩んできました。そこで、この「記念パーティー」には同窓生や教職員に加え、近隣住民の皆さまをお招きし、総勢約170名が出席されました。

参加者には、赤レンガ100周年を記念して制作された「オリジナル記念切手」が、同窓会より贈呈されました。



オリジナル記念切手

草野顕之学長ならびに藤島建樹同窓会長の挨拶の後、近隣住民の代表・長谷川淳一京都市北区長の乾杯発声を皮切りに、「記念パーティー」は開会されました。記念行事のために特別にライトアップされた「赤レンガ」を間近に眺めながら、懇親が深められました。パーティーの最後には、参加者全員で「大学歌」「寮歌」をともに歌い、成功裡に終了いたしました。



長谷川京都市北区長の乾杯発声



参加者による「大学歌」「寮歌」合唱



赤レンガのライトアップ

赤レンガ100周年記念「第18回ホームカミングデー」開催(報告)



草野顕之学長挨拶

学園祭(紫明祭)期間中の11月9日(土)、同窓会が主催する赤レンガ100周年記念「第18回ホームカミングデー」が開催されました。ホームカミングデーは、例年学園祭期間中の土曜日に、「同窓生の母校への里帰りの1日」として企画しているものです。今年は、赤レンガ～尋源館(旧本館)～が落成式を行ってよりちょうど100年目を迎える日に、記念行事の一貫として行われました。

退職された先生や専任教員、同窓会役員や同窓会支部長にも、多数ご出席いただきました。同窓生も例年より多く参加され、前年度より70名ほど多い、約290名の参加がありました。



同窓会役員・支部長・支部事務局の方々



特製ケーキを見学

オープニングでは、「赤レンガ」が100歳の誕生日を迎えたことを

記念して、赤レンガをモチーフにした大きな特製ケーキが披露されました。フリータイム中には、懐かしい恩師や旧友と懇談しながら、参加者の皆様にそのケーキを味わっていただきました。

また、「赤レンガ」への思いを新たにさせていただく機会として、スタンプラリーを企画しました。スタンプラリーでは、「博物館」「尋源館」「博綜館」で、それぞれ「レ」「ン」「ガ」の3文字のスタンプを集めていただきました。



スタンプラリーへ参加

秋季企画展Ⅱ「赤レンガの学舎(まなびや)」が開催されている博物館では、同窓生であり、また日本画家でもある畠中光享先生の絵画「百年目の尋源館」もご覧いただきました。尋源館では、建築当時そのままの「階段」や「天井装飾」を見学しながら、懐かしい「赤レンガ」を散策いただきました。3か所目のスタンプポイントである博綜館では、ガラス窓越しの「赤レンガ」や建築当時の通学路にあった「尋源橋」の石柱、赤レンガの階段板を利用して製作された「木のベンチ」をご覧いただきました。

また、前年度に「同窓生の投票による模擬店表彰」を受賞した“GLOBAL SQUARE”に、ホームカミングデー会場で模擬店の商品の販売を依頼しました。中国料理である「サンラータン」を食べながら、在学生との交流も図られました。

なお、今年の「模擬店表彰団体」には、おにぎりなどを販売した“自

灯学寮”が選ばれました。ホームカミングデー閉会式で結果が発表され、翌日の学園祭後夜祭において、同窓会より表彰されました。

閉会式では、スタンプラリーの参加者に「同窓会役員」「同窓会支部(全国に80ある地域支部)ならびに支部長」よりご提供いただいた特産品が贈られました。この特産品は、ホームカミングデーの盛会と同窓会の活性化を願い、ご提供いただいたものです。ホームカミングデー当日までに会場に並べきれないほどのお品が届き、会場にて参加者にご披露いたしました。

次回も同窓生の皆さまのご参加を、心よりお待ちしております。



スタンプラリーの参加者に特産品贈られる

「赤レンガ100周年記念」同窓会事業として、大学歌・寮歌の収録を行う

「赤レンガ100周年記念」同窓会事業の一環として、同窓生には懐かしい「大学歌」と「寮歌」の収録が、2014年2月26日に行われました。今回の収録は、合唱を大谷大学男声合唱団のOB有志と現役団員、ピアノ伴奏を元本学教授の豊住征子先生、録音・編集を同窓生で本学非常勤講師の倉光延行先生と人文情報学科松川ゼミ学生有志の方々の協力を得て行われました。



合唱風景(大谷大学男声合唱団のOB有志と現役団員)

ぜひ大学歌と寮歌を、同窓会ホームページ「無盡燈」

(<http://www.mujiinto-otani.org/songs>)でお聞きください。



収録風景(大谷大学男声合唱団のOB有志と現役団員、豊住先生、倉光先生と人文情報学科松川ゼミ学生有志の方々)

2013年度 卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会を開催



織田同窓会理事長 祝賀会趣旨説明

2014年3月18日(火)、大谷大学・同大学院・大谷大学短期大学部の卒業証書並びに学位記授与式終了後、グランドプリンスホテル京都において、「大谷大学卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」が開催されました。

この祝賀会は、卒業・修了をお祝いする「祝賀の会」であると同時に、「大谷大学同窓会」へのご入会を歓迎する「歓迎会」としての意味を込めて、「大谷大学」と「大谷大学同窓会」が共催する祝宴です。

歓迎祝賀会では、織田顕祐同窓会理事長の祝賀会についての趣旨説明、草野顕之学長・藤島建樹同窓会会長の挨拶の後、2013年度の学生支援表彰「菩提樹賞」の表彰が行なわれました。

その後、卒業・修了生を代表し

て文学部正宗学科の牧野良亮さんが挨拶と乾杯の発声を行ない祝宴が始まりました。



卒業・修了生代表 牧野さん 乾杯発声

アトラクションでは短期大学部幼児教育保育科卒業生全員による合唱と、卒業生有志・教職員による寮歌を披露していただき、祝賀会は大変盛り上がりを見せました。



幼児教育保育科による合唱

卒業・修了生は学生生活最後を惜しむかのように、和やかな雰囲気の中、恩師、友人との語り

を楽しんでいました。



歓談の様子

2013年度 学生支援表彰「菩提樹賞」を高橋さん・國松さん・清水さんが受賞

3月18日（火）に開催されました「大谷大学卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」において、同窓会学生支援表彰「菩提樹賞」の表彰が行なわれました。

この「菩提樹賞」は、同窓会が学術・文化・スポーツ・ボランティア活動などの分野で、顕著な成績や多大な成果を収め、大谷大学の発展に貢献した学生または課外活動団体を表彰し、学生生活の充実に資することを願って贈るものです。

今回は、学術部門で文学部教育・心理学科の高橋茉由さんが表彰さ

れました。また、スポーツ分野では文学部社会学科ご卒業の國松和貴さん、文学部文学科ご卒業の清水健さんが表彰されました。

今後、高橋茉由さん・國松和貴さん・清水健さんが一層活躍されることを期待しています。



國松さん 受賞者代表 挨拶



受賞者(左より)清水さん、高橋さん、國松さん

同窓会費の納入のお願い

本学同窓会は、同窓の皆さまと母校との連繫を図ることを目的に、同窓会総会等の諸会議の開催、支部総会・夏季八十講への補助、ホームカミングデーの開催、新入会員歓迎祝賀会の開催、会報誌『無盡燈』の発行・送付、ゼミ・クラス等同期会及びクラブのOB・OG会への補助等の事業を展開しています。

このような事業の財政基盤は、同窓の皆さまから納入していただく同窓会費（終身会費と年会

費）と寄付金によって賄っています。

現在同窓会員は約36,500名ですが、そのうち約2/3が終身会員（1992年3月以降の卒業・修了の方は、入会時に終身会費を納入していただいております）、約1/3が通常会員（1991年9月以前の卒業・修了生で終身会員以外の方）となっています。

同窓会活動は、側面から大学を支えて、母校の更なる発展に寄与するために、ますますの活

性が強く求められています。このためにも、同窓会活動へどうか温かいご理解とご支援を賜わり、年会費または終身会費、寄付金の納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。

いずれの場合も、同封の払込取扱票（郵便局扱）をご利用いただきますと手数料は不要です。

なお、通常会員から終身会員への変更も可能です。詳しくは、同窓会本部（075-411-8124）までお問い合わせください。

**2014年度「大谷大学・同窓会
全国縦断 夏季八十講」ならびに
「支部総会」の開催について**

今年度も7月から9月にかけて、「大谷大学・同窓会 全国縦断 夏季八十講」ならびに「支部総会」を全国74支部69会場で開催いたしました。

夏季八十講は、全国に80支部ある同窓会支部と大谷大学とが協働して講演会を開催するもので、同窓生・在学生はもとより広く一般市民にも公開され、地域社会の文化興隆に大きな役割を果たしています。

特に、「湖東支部」「広島支部」「福岡支部」の3支部では、今年度、同窓会が設立母体となるNPO法人「尋源舎」(下欄参照)との共催で、「仏教公開セミナー」として広く市民に開かれて実施されました。



静岡県支部



湖東支部(仏教公開セミナー)



福岡支部(仏教公開セミナー)

**支部長・事務局交代等のご紹介
ありがとうございました
よろしくおねがいたします**

- 〈夕張支部長〉 月 輪 淳 裕
(前支部長 伊藤堅浄)
- 〈宮城支部長〉 白木澤 建 生
(前支部長 関口秀和)
- 〈秋田支部長〉 枝 川 慶 信
(前支部長 山崎伝成)
- 〈大聖寺支部長〉 藤 懿 彰 了
(前支部長 但馬信勝)
- 〈島根支部長〉 多 賀 慈 久
(前支部長 蓮岡隆章)
- 〈福山支部長〉 宮 武 均
(前支部長 水野和成)
- 〈栃木支部事務局〉 雲 乗 真 樹
(前事務局 那須信純)

新たに発足した支部事務局

- 〈夕張支部事務局〉 金 崎 真 至
- 〈飛騨支部事務局〉 窪 田 純
- 〈鹿児島支部事務局〉 富 重 真 直

じんげんしゃ
NPO法人「尋源舎」について

NPO法人「^{じんげんしゃ}尋源舎」は、同窓会が設立母体となって、2006年12月に設立した、仏教の公開を目的とした特定非営利活動法人です。尋源舎は、皆さまからの賛助金(一口3,000円)で活動を行っています。

お問い合わせは、大谷大学同窓会本部(TEL: 075-411-8124)まで。



同窓通信

「紙ヒコーキにのること」

蓮岡 修

(1998年大学院修士課程修了)

学部では真宗学を専攻した。だがあまり大学には行かず、アルバイトや学校外の人に会うことに時間を使っていた。教室で語られる教学と、今、自分が生きている現代社会とのギャップ、生きることのリアリティ等の問いがずっと頭を離れなかった。それがアフガニスタンの戦場へと駆り立て、人と宗教が混在する世界への興味へと繋がった。

学内の友達とはどこかなじめず、周りのクラスメートのように明るい気持ちはずっと持てなかった。本も読まなかったので、喫茶店をうろついていた記憶ばかりが残る。

大学院の時に参加した授業での、故岩田慶治先生との出会いが私の転機だった。数人だけの最初の授業でおもむろに紙ヒコーキを飛ばされた。いぶかしむ学生を前に「このヒコーキの上に乗れると思う」。つぶやくような声だった。それまで大学で学んでいた自分の持っていた世界を測る物差しを一瞬で取り上げられた気分であった。耳触りのいい学識や生きる品位が感じられない仏教がとうてい及ばない世界。頭よりも身体がその時に反応した。「仏教は生きるものである」小さな学びの種をいただいた。

卒業後、広告代理店や造園業、アフガニスタンやスリランカ、ベトナムでの支援活動などに従事

した。ある日、アフガニスタンの片隅の村で、西に向かい祈りを上げる人々を見ていて突然思った。「アッラーはいる」その時に、あの授業を思い出した。地を這うように生きる人たちの中にある、自分と同じかけがえのない人生、それを支えている絶対的な自然（じねん）。それは私にとっては仏教であった。そう思ったら急に仏教が愛おしく感じられた。紙ヒコーキに乗るとは、自然（じねん）にゆだねるということではないのか。そう感じた20代後半から今でもその問いは続いている。



現在、京都市内で子どもの本専門店と、子育て支援広場を運営している。私は質の高い絵本によって親子が心を共有し一番小さな平和ができると思っている。それが集まった大きな平和ではないか。そう信じて、自分なりの平和への歩みを進めている。

あの授業から20年近く経つ。今でもあの種は形を変えて私の中で育っているように思う。

ヒコーキはまだ遠くに飛んでいる。

(子供の本専門店経営・僧侶)

現役教員からのお便り ▶▶▶

同窓生の皆様へ

大谷大学教授（社会学）志藤 修史

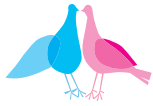
同窓生の皆様。お元気でいらっしゃいますか。

私が所属する社会学科は来年から新たなコースを立ち上げます。学生が地域に出向き、様々な人と出会い、そこで直面した現実から、課題やその解決方法などを考え、学びを深めることを内容としています。このような、地域で学ぶことの大切さを実感させていただいたきっかけは、東日本大震災での活動の経験です。震災の後、教職員と学生有志による東北への訪問活動がスタートしました。学内外からのご支援とご協力により、本学バスを使用させていただいての活動でした。訪れた地域で聴かせていただくお話、目の当たりにする現実に教職員学生一同、大きな衝撃を受けるばかり

りでした。今日まで15回の活動を継続してきましたが、2年を過ぎ3年を過ぎても、学生の心には強い衝撃が残り、いのちや暮らしについて深く考えるきっかけになっているようです。出向き出会うことの大切さ、このことが大切な学びとつながる、そう考えています。



そこで全国で活躍されている同窓生の皆様に1つお願いがあるのです。皆様の知恵と経験により、学生の学びの場をともに創っていただきたい、学生にお話を伝えていただきたい、そう願っております。



ご結婚おめでとうございます

幸せなご家庭を築かれることを念じ申し上げます。

()内は最終卒業・修了年(敬称略) ※同窓会本部 7月31日現在 掌握分
結婚式日順

※大谷大学尋源講堂で仏前結婚式をお受けしています。
お問い合わせは、総務課(電話:075-411-8163)まで。



清水 尚彦 (1998文) ♥	新田 理恵 (1998文)	法岡 満敬 (2011文) ♥	山本 友紀
一柳 淳徳 (2004修) ♥	加藤 聖子	足立公志朗	♥ 内堀 陽子 (会友)
宮田 大輔 ♥	山口 薫 (1996文)	小倉 匡	♥ 小原 紗貴 (会友)
天野 敬介 ♥	太江由佳理 (会友)	野村 壮典 (会友)	♥ 大西 有香

敬 弔

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

()内は最終卒業・修了年(敬称略) 年月日はご逝去された日付

※同窓会本部 7月31日現在 掌握分
ご逝去された日付・五十音順

奥島 梓 文学部 (1999) 2012. 7. 8	松見 康雄 文学部 (1971) 2013. 8. 27	中島 裕幸 大学部 (1948) 2014. 1. 7
岡崎 敬子 短期 (1986) 2012.10.11	和田 祐建 文学部 (1970) 2013. 8. 28	高田つや子 会友 (一) 2014. 1. 8
古野 有宣 大学部 (1952) 2012.10.11	川那辺 亮 大学部 (1951) 2013. 9. 3	湯朝 尚美 大学部 (1942) 2014. 1. 8
高名 一徳 文学部 (1961) 2013. 3. 1	東 義孝 短期 (1958) 2013. 9. 8	奥岡 一英 文学部 (1956) 2014. 1. 9
諸岡 昭圓 大学部 (1949) 2013. 3. 15	嶂南 文雄 大専門 (1945) 2013. 9. 12	坂本 遵賢 大学部 (1947) 2014. 1. 11
野上 静雄 大学部 (1947) 2013. 3. 20	滝本 裕造 会友 (一) 2013.10. 8	信國 泰之 短期 (1954) 2014. 1. 18
金沢 成章 文学部 (1959) 2013. 3. 22	蜂屋 教正 大学部 (1935) 2013.10. 9	西田 潤一 会友 (一) 2014. 1. 31
草部 史考 文学部 (1958) 2013. 4. 17	伊東 慧明 博士 (1962) 2013.10.12	今井富久子 会友 (一) 2014. 2. 10
庵 澄夫 文学部 (1967) 2013. 4. 19	大幸 昭 大学部 (1952) 2013.10.19	現影 正中 大専門 (1948) 2014. 2. 13
坂田 正孝 大学部 (1953) 2013. 5. 5	松田 晃尚 文学部 (1981) 2013.10.21	安部 善和 短期 (1962) 2014. 2. 28
佐々木正俊 大学部 (1952) 2013. 5. 6	加来 玄雄 大学部 (1953) 2013.10.22	原谷 紹然 文学部 (1969) 2014. 3. 1
堂宮 賢瑞 大学部 (1944) 2013. 5. 23	横山 英秀 大専門 (1949) 2013.10.22	高岡 晃英 大専門 (1948) 2014. 3. 6
本田 修 大学部 (1951) 2013. 5. 23	奥野 照成 大専門 (1945) 2013.10.24	滋野井 恬 博士 (1959) 2014. 3. 13
稲葉 実成 修士 (1956) 2013. 5. 26	高口 和典 大学部 (1952) 2013.10.24	本荘 堅一 文学部 (1959) 2014. 3. 25
藤尾 俊基 文学部 (1967) 2013. 6. 1	鎮西 月昭 大学部 (1952) 2013.10.24	石野 禮二 大学部 (1939) 2014. 3. 27
堀尾 昌純 大学部 (1952) 2013. 6. 2	川那部 誠 文学部 (1959) 2013.10.29	越浦 大龍 文学部 (1955) 2014. 4. 8
渡辺 承神 大専門 (1950) 2013. 6. 2	三上 正広 文学部 (1959) 2013.10.30	角田 文立 文学部 (1956) 2014. 4. 16
中野 好堅 大学部 (1952) 2013. 6. 13	佐伯 昭彦 文学部 (1966) 2013.10.31	宮川 弘洋 短期 (1962) 2014. 4. 16
藤丸 昭 大学部 (1953) 2013. 6. 15	北藤 寛照 大専門 (1951) 2013.11. 4	中野 徹 大学部 (1950) 2014. 4. 23
寺真 恵聖 文学部 (1984) 2013. 6. 19	佐藤 國雄 大学部 (1952) 2013.11. 4	広瀬 豊海 大専門 (1945) 2014. 4. 27
島津 恵麟 文学部 (1959) 2013. 6. 20	藤野 慧 文学部 (1966) 2013.11. 6	中臣 昭 大学部 (1951) 2014. 4. 28
三明 尚之 文学部 (1967) 2013. 6. 23	稲垣 俊夫 大予科 (1943) 2013.11.13	楠本 俊朗 大学部 (1953) 2014. 5. 5
伊藤 義城 大学部 (1945) 2013. 6. 28	清田 元 文学部 (1953) 2013.11.15	稲谷 晃英 大専門 (1935) 2014. 5. 8
富永 伸 大学部 (1948) 2013. 7. 3	加藤 恵肇 文学部 (1979) 2013.11.28	石黒 重文 大専門 (1945) 2014. 5. 9
赤阪 明俊 大学部 (1935) 2013. 7. 6	宇都宮 勝 短期 (1954) 2013.12. 1	岩佐 信明 文学部 (1956) 2014. 5. 10
鈴木 文薫 大学部 (1950) 2013. 7. 8	三好佐代子 短期 (1983) 2013.12. 6	小代 浩然 大専門 (1948) 2014. 5. 17
白山久二男 大学部 (1943) 2013. 7. 11	海 法定 文学部 (1972) 2013.12.10	
山科 是尚 大学部 (1947) 2013. 7. 26	藤林 健彦 大学部 (1949) 2013.12.12	
長尾 芳宗 大学部 (1944) 2013. 7. 28	清谷 良弼 文学部 (1962) 2013.12.14	
上岸 了 文学部 (1977) 2013. 8. 3	岡 実潤 大専門 (1944) 2013.12.29	
島津 京淳 博士 (1996) 2013. 8. 10	星名 隆 文学部 (1954) 2013.12.31	
久世 直文 文学部 (2004) 2013. 8. 12	吉武 史朗 大学部 (1947) 2014. 1. 2	
廣川 彰恩 大学部 (1952) 2013. 8. 24	山浦 賢順 文学部 (1958) 2014. 1. 5	

大門照忍先生、ご急逝
 去る5月24日、元本学教員の大門照忍先生がご急逝されました。
 ここに深甚の謝意を表し、謹んで哀悼の意を表します。

「共同の努力」

日本の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2010年1億2,806万人が2060年には8,674万人になるという。約3分の1の人口減である。しかも、65歳以上人口が39.9%を占める「超高齢社会・人口減少社会」である。



大谷大学教授
(社会福祉学)
安井 喜行

「人口減少社会」に歯止めをかけるために、団塊世代がすべて75歳以上となる2025年を節目にした社会保障改革が始まっている。これまでの高齢者を優遇する仕組みを見直し、次世代支援策の推進をはかるという内容である。ほんとうに高齢者を「優遇」する社会保障制度と言えるのだろうか。

主要6カ国における政策分野別社会支出の対国内総生産比(2009年度)をみると、「高齢・遺族」分野に差はない。むしろ問題は、「家族」分野がフランスやイギリス、スウェーデンの1/3、ドイツの1/2に過ぎないことにある。これらの国は1930年から50年代に児童手当制度を創設している。全体主義国家であったイタリアやスペイン、ハンガリーなども第二次大戦前に設けている。

ところが、日本の児童手当は1972年実施である。

一人の女性が生涯に女子を次世代として産み残していく「人口純再生産率」は、1974年から「1」を割っている。それは人口の縮小再生産を意味している。この時期に第3子から支給する手当では少子化対策として期待できるものではなかった。

政府は1989年の合計特殊出生率「1.57ショック」によって気づかされるが、その年の人口純再生産率は0.76。2011年は0.67とさらに先細りしている。子どもを産むことが困難になっている根底には、過労死に至る長時間労働や女性の雇用・労働条件の不安定化、小児科・産婦人科など保健・医療、住宅・生活環境の不備・不足の問題が横たわっている。

2025年に向けた「成長戦略」は、若者や女性をマンパワーとして「生かす」政策という側面が強い。必要でなくなった人間を切り捨てる政策でもある。「国が何とかしてくれる」という甘えがある限り、人間らしく生きることはできない。かけがえのない「いのち」を守る世代をこえた「共同の努力」をどう築いていくか、私たち主権者に問われている。

わが家では、ようやく一人息子の夫婦に長女が誕生した。家族による扶養・介護の担い手としての期待ではない。三世代が力を合わせる「共同の努力」の担い手として。

表紙絵 「一人」

インドを旅していると、人がいそうにないところで思いがけず人に会うことがあります。広大なコーサンビー(Kaushambi)一釈尊時代の十六大国の一つ、ヴァツツア国の首都で、釈尊の信奉者ウダヤナ王(優填王)の統治していたところ。遺跡はヤムナー河に面し広大な煉瓦の城壁遺構やストゥーパがあり、柱頭はないがアショカ王柱も残存している。の遺跡で山羊追いの少女がたった一人突然出てきました。笑顔の可愛い少年のように凛々しい子供でした。ちょっとそこに立っていてね、という素描が終わる日暮れまでじっと実に自然に立ってくれました。付近に家は見えない。しかし家族の待つ家があり、それから帰宅するのでしょうか。

今年に入って人生を三度生きたという小野田寛郎元陸軍少尉が91才で亡くなりました。フィリピン、ルバング島のジャングルで敗戦後も29年間独り戦った戦争犠牲者です。帰国して書いた本の印税でブラジルに渡り牧場を開き、その後日本に帰り「少年よ自然に帰れ」と自然塾を開設。その小野田さんの言葉が残っています。「死ぬのが嫌だから頑張って生きた。」孤独だったでしょうの問いに「人間の弱さ、独りの弱さが身に沁みた。精神的な自由を

66.0×44.5cm 2014年作

ある程度は我慢しても、多くの人々と共に生きることが大事なんです」と答えていました。それは悲しい程の説得力がありました。親鸞聖人は、「一人いて喜ばば二人と思ふべし、二人いて喜ばば三人と思ふべし、その一人は親鸞なり」と申されています。現実的にも精神的にも一人では生きられないものです。インドではあなたの宗教は何ですかという問いをよく耳にします。もし無宗教だと答えれば、何と横柄で、小さな、自分よがり、自然(神)に謙虚さのない傲慢な人間だと思われてしまいます。

現在になって、大谷大学の学生時代の人と再び知り合えることが少なからずあります。人と縁は縁を呼びます。若き日の夢や希望をなくすことなく、与えられた仕事に精一杯努力を続けてきたからだと思ひ、心と身体の続く限り努力するしかないと思っています。決して一人で生きているのではなく、仏さまや人々に願われて生きているのですから。

島中光享 (1970年文学部卒業)

日本画家 大谷大学非常勤講師

2014年9月19日発行

発行 大谷大学同窓会本部
編集 『無盡燈』編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内
電話 (075) 411-8124 FAX (075) 411-8157
振替 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mujiinto-otani.org/>

E-mail:kouyu@sec.otani.ac.jp

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。『維摩経』に「無盡燈というのは、譬えば一つの燈をもって百千の燈をともしようなものである。冥やみがみな明るくなるが、その明りはついになくなることがない。…説かれた教えのとおりにもずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。